

平成24・25年度 教育相談に関する研究

研 究 主 題

教育相談的手法を取り入れた児童生徒同士の
コミュニケーション能力の育成
ーアサーショントレーニングを通してー



はじめに

国立大学法人埼玉大学 教授 沢崎 俊之

継続は力なり，蓄積は宝なり

－ 技術 (art) を学ぶということ －

エーリッヒ・フロムはその著書「愛するということ」(鈴木晶訳，紀伊國屋書店)で，技術を習得する過程について，以下のように述べています。

技術を習得する過程は，便宜的に二つの部分に分けることができる。一つは理論に精通すること，いま一つはその習練に励むことである。もし医学を習得したければ，まず人体やさまざまな病気についての多くの事実を学ばねばならない。しかし，そうした理論的知識をすべて身につけたとしても，それだけでは医学を身につけたことにはならない。実際の体験を山ほど積んで，理論的知識の集積と実践の結果が一つに融合し，自分なりの直感が得られるようになったときにはじめて，医学をマスターしたといえるのだ。この直感こそが，あらゆる技術の習得の本質である。

自分も相手も大切にしたいコミュニケーションをめざす，アサーション(という技術)の習得にも，上記の指摘はあてはまることでしょう。現在わが国では，アサーショントレーニングを学校教育の中に取り入れる試みが各地で広がりつつありますが，その中であって本研究は優れた特徴を持って，重要な貢献をしていると考えられます。

それらの特徴を私なりに整理してみます。第1の特徴は「茨城バージョンの取り組み」です。これは，通常の一単位時間を使って行われてきたロングトレーニングに加えて，学校生活にありがちな場面(“掃除をやらない友達を注意する場面”“休み時間の過ごし方について意見が食い違った場面”など)を用いたショートトレーニングも数多く開発し，学年・クラスで継続的にトレーニングを実施し，その成果を検討した点です。まさに「継続は力なり」です。本文で述べられている「シャワーのようにアサーティブな表現を浴びせ続けることで，まずはアサーティブな表現を知ること，すなわち，思考の変化をねらったものである。この思考の変化は，小さなものかもしれないが，その小さな点がやがてつながり線になり，一日を通してアサーティブな表現に触れることができるようになる」という表現に，本研究に関わったすべての方たちの強い思いが託されているように感じました。

しかし，ただやみくもに継続すればよいというものではありません。本研究の第2の特徴として，「言い方・表現の仕方」のトレーニングのみではなく，「傾聴」のトレーニングも重視している点があげられます。これは，アサーションの本質についての的確な理解の上に立ってのことと考えられます。

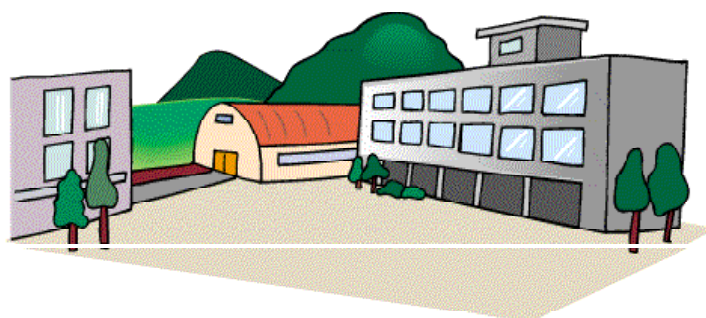
さらに第3の特徴として，アサーション・トレーニングを通じて，「自尊感情」，「人権意識」，「学びの質」を高めようと構想し，それを検証しようとしている点があげられます。特に授業場面での学びの質をも視野に入れている点が優れた点と考えられます。

以上，本研究の優れた特徴として3点を指摘しました。そして2年間に渡る研究の成果が本報告書であるわけです。ひとりでも多くの教育関係者がこの蓄積の「宝」から学び，さらに，それらを発展させることに寄与することを真に期待しています。

目 次

1 研究概要	1
(1) 主題設定の理由	
(2) 研究のねらい	
2 理論研究	2
(1) コミュニケーション能力について	
(2) アサーションとは	
(3) アサーションの歴史と広がり	
(4) アサーションとコミュニケーションの関係	
(5) アサーションの必要性	
(6) 児童生徒にアサーションを伝える意義	
(7) 三つのタイプの自己表現	
(8) 茨城バージョンの取組	
(9) アサーションを身に付けることで期待できる効果	
3 調査研究	7
(1) 「コミュニケーションに関する調査」の概要	
(2) 調査の分析	
4 実践研究	
(1) 小学校（望ましい人間関係の構築と学びの質の高まり）	27
ア ショートトレーニング（低学年）	
【1学年 作り方を教えてもらいたいとき】	
イ ロングトレーニング（低学年）	
【1学年 列に同時に並んでしまったとき】	
ウ ショートトレーニング（中学年）	
【3学年 友達に静かにしてもらいたいとき】	
エ ロングトレーニング（中学年）	
【4学年 丁寧に友達の話聴く】	
オ ショートトレーニング（高学年）	
【6学年 上手な聴き方】	
カ ロングトレーニング（高学年）	
【6学年 友達に同意を求められ、自分の考えを伝える話し方を考えよう】	
キ まとめ	
(2) 中学校（人権意識の高揚）	54
ア ショートトレーニング	
【相手（話し手）にとって気持ちのよい聴き方】	

イ	ショートトレーニング	
	【メールなどで上手く自分の意見を伝えるとき】	
ウ	ロングトレーニング	
	【自分で自分をほめよう】	
エ	まとめ	
(3)	高等学校（自尊感情の高揚）	65
ア	ショートトレーニング	
	【友達がよくない行動に対し，注意を伝え改善を促す】	
イ	ロングトレーニング	
	【アグレッシブな対応にアサーティブに返そう】	
ウ	まとめ	
5	研究のまとめと今後の課題	76
	参考文献，研究関係者一覧	78



1 研究概要

(1) 主題設定の理由

近年、学校では児童生徒同士のつながりが希薄化する傾向にあり、人間関係をうまく構築できずにトラブルになることも少なくない。当教育研修センターの電話相談、来所相談（子どもの教育相談）においても、友人関係などに起因するものが年々増加している。そこから、人間関係が適切に築けずに苦戦している児童生徒の姿が浮き彫りとなっている。また、自分のストレスを言語的に表現できず、病気などの身体化や非行などの行動化を通して訴えているような事例は深刻で、学校におけるコミュニケーション能力の育成は喫緊の課題でもある。文部科学副大臣の主催により設置された「コミュニケーション教育推進会議」は、平成23年8月に審議経過報告を取りまとめた。その中で「コミュニケーション能力を学校教育において育むためには、①自分とは異なる他者を認識し理解すること ②他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考すること ③集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと ④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むことなどの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要がある」と述べている。そこで、本研究では学校というコミュニティの力を最大限に活用することで、児童生徒が互いの「ちがい」を共有し、それぞれの存在を認め合い、自らの考えを伝え相互理解を深め合いつつ合意形成・課題解決する能力を育む実践に取り組むたいと考えた。そしてコミュニケーション能力を育成する手立てとして、自分の気持ちや考え、欲求を適切に伝えるアサーションを取り上げた。平木典子氏は「アサーティブな発言では自分の気持ち、考え、信念などが正直に率直に、その場にふさわしい方法で表現されます。そして、相手が同じように発言することを奨励しようとしています」としている。すなわち、アサーションとは、自分も相手も大切に自己表現であり、このアサーティブな表現を身に付ける方法の一つであるアサーショントレーニングを学校で取り入れ実践することで児童生徒のコミュニケーション能力の育成を目指したいと考えた。（図1参照）

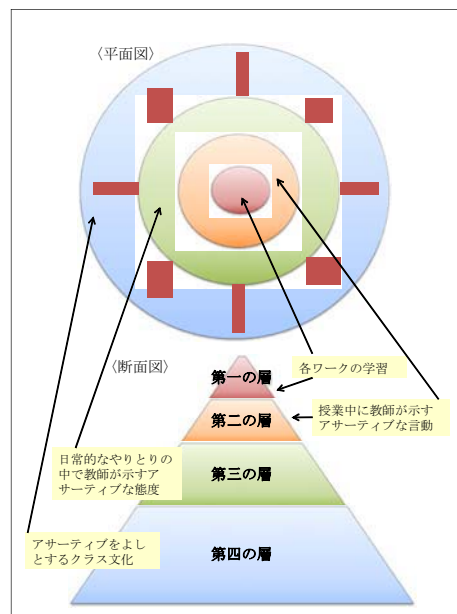


図1 学級におけるアサーションの学びの重層構造（教師のためのアサーションを基に作図）

(2) 研究のねらい

- ア 児童生徒の学校生活における友達とのかかわりについて調査し、児童生徒のコミュニケーション能力の実態を把握する。
- イ アサーショントレーニングの実践を通して、児童生徒同士のコミュニケーション能力の育成を図る。
- ウ 児童生徒のコミュニケーション能力を育成するために、学校の生活場面に生かせるアサーショントレーニング集を作成し、効果的な実践の在り方を究明する。

2 理論研究

(1) コミュニケーション能力について

OECDは「知識基盤社会」の時代を担う子どもたちに必要な能力をキー・コンピテンシーとして、三つのカテゴリーを定義付けした。その一つが「多様な社会グループにおける人間関係形成能力（自己と他者との相互関係）」である。さらに、具体的な内容として、①他人と円滑に人間関係を構築する能力 ②協調する能力 ③利害の対立を御し、解決する能力 が示されているが、これらを身に付ける上で必要なことは他者と十分にコミュニケーションを図ることが必要と考える。しかし、今の児童生徒は自分の気持ちを問われたときに「・・・ビミョウ。」と答えることに代表されるように、素直に気持ちを表現しなくなっている。これは相手をおもんばかるというよりは、自分の気持ちや考え、欲求を表現することで相手との関係性が崩れることを危惧するためと考えられる。人間関係が希薄化していると言われる児童生徒に、国際的に求められる力を養うためには、相手の気持ちや考え、欲求を受容しつつ、きちんと自分の気持ちや考え、欲求を伝えられるようにするコミュニケーション能力を身に付けることが必要と考える。

児童生徒のコミュニケーションについて中央教育審議会は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成20年1月17日）の答申において、豊かな心を育む観点から、「自分や他者の感情や思いを表現したり、受け止めたりする語彙や表現力が乏しいことが、他者とのコミュニケーションが取れなかったり、他者との関係において容易にいわれるキレてしまう一因になっており、これらについての指導の充実が必要である」と指摘している。これを受けて学習指導要領では、生きる力を育むという理念の下、「児童（生徒）の発達の段階を考慮して、児童（生徒）の言語活動を充実する」ように配慮することを求めている。

さらに、コミュニケーション教育推進会議審議経過報告（平成23年8月29日）では「国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、社会に出てから最初に直面する世代間コミュニケーションの問題を克服する能力。そして何より、楽しい学校生活を送るために、いじめや、キレるという現象をできる限り少なくするような人間関係を形成していく能力。多様なコミュニケーション能力は、いずれもこれからの時代を生きる子どもたちにとっての基礎的な能力となっています」とコミュニケーション能力の必要性を訴えている。また、同報告では、コミュニケーション能力について「コミュニケーション能力を、いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」と定義付け、コミュニケーション能力の育成を推進している。

以上のように、コミュニケーション能力は、国際的にも日本の児童生徒の実態からも注目を集める力の一つと考える。本研究では、コミュニケーション能力を「共同体の力を最大限に発揮するために、それぞれの『ちがい』を共有し、それぞれの存在を認め合うことで、豊かな人間関係を築きながら、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」と定義し、教育相談的手法を用い、その育成を図る。

(2) アサーションとは

アサーションとは、「自他尊重のコミュニケーション」のことを言う。具体的には「自分の気持ちや考え、欲求などを確かめて、それに率直に、正直に、その場の状況に合った適切な方法で表現すること」であり、「他人の基本的人権を侵すことなく自分の基本的人権のために立ち上がり表現すること」である。すなわち、アサーションという言葉には「相手のことも大切にすること」という意味があり、「自己主張」という日本語では、その意味が抜け落ちやすい。アサーションを日本人に適した形に翻案して紹介した平木典子氏は、「さわやかな自己表現」と表現した。

アサーションには、自分も相手も大切にすることとコミュニケーションといった意味が含まれ、人とのかかわりの中で生きる人間にとって欠かすことのできないコミュニケーションの在り方が示唆されている。人は他者とのコミュニケーションなしで生活することは困難で、アサーションを学ぶことは他者との関係性を考えるきっかけとなり、「コミュニケーションの取り方を具体的に学ぶ」方法として適切であると考えた。

(3) アサーションの歴史と広がり

もともとアサーションは、人間関係が苦手な人、コミュニケーションが下手な人、引っ込み思案な性格で人と自由なやり取りができない人のための支援法、訓練法として開発された。しかし、その後の研究で個人の自己表現はもとより、その人を取り巻く人々の支援も必要であると考えられ、「誰もが、いつでも、どこでも実行する必要のある人間関係の基本」と捉えられるようになった。

日本では1980年代以降、社会教育や大学生を対象とした学生相談などを中心として徐々に浸透してきた。女性や学生、医者や看護職、福祉職、企業人にも広がりを見せている。さらには、児童生徒のコミュニケーション能力の低下を補填するための有効な心理教育プログラムとしての役割を担って、各学校種でも広がりを見せている。かつての自己表現が上手にできない人のためだけでなく、より豊かな人間関係を築きたい（築かせたい）と考えている人々にも期待されている。

(4) アサーションとコミュニケーションの関係

歌手西野カナさんの歌に「絵文字一つもないそっけない返事しか届かなくて」という歌詞がある。メールのやり取りでは、絵文字などがよく使われるが、これは文字だけだと伝わりにくい感情を一目見て分かるように伝えるために発達したと言われる。アサーションは、思考を伝える言語と情緒を表す非言語を活用した相互交流であると言える。人間はこの二つの表現方法を駆使して、複雑な状況を説明したり、感情を伝えたりする。特に、言語が未発達の子供は、非言語的表現で伝えたり、読み取ったりすることが得意と言われるが、その子供がメールのやり取りでトラブルを起こす理由には、非言語的表現が使えず、言葉のみに気持ちを託して伝えようとするところがあるのではないだろうか。相互理解を深め、気持ちを交流させるためには面と向かって言語、非言語の両方を使った話合いが重要である。そのためには「自他尊重のためのコミュニケーション」であるアサーションが適していると考えられる。

(5) アサーションの必要性

ア 児童生徒が自分の気持ちを確認する必要性

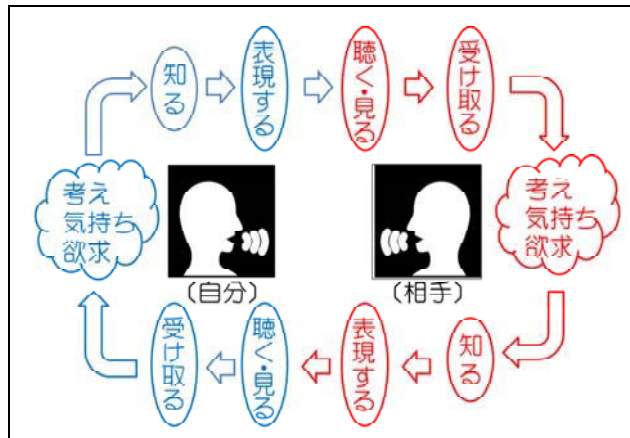
2000年代に入ってから「キレル」、「ムカつく」といった言葉で表されるような怒りを攻撃的に暴発させることが、児童生徒の特徴として注目されるようになってきた。こうした児童生徒の行動を考えたとき、児童生徒が自分の気持ちをどの程度確かめているかを考える必要がある。「自分に気持ちがあること」を知らなければ気持ちを表現することはできないだろうし、「相手に気持ちがあること」に気付かなければ、相手を無視しても何とも思わないだろう。人間関係が希薄になり、自分や他人の気持ちを確かめにくくなっている現代に生きる児童生徒にこそ、アサーションの必要性が高まっていると考えられる。

イ 児童生徒が自分の気持ちや考え、欲求を表現する必要性

沢崎俊之氏は、著書「教師のためのアサーション」(2003)の中で、「『子どもは子どもである』という理由で、その考えや気持ちを尊重されてこなかった歴史があるのではないのでしょうか。そのようななかでは、子ども自身が、自分の気持ちや考えを言っていないと思えるはずがありません」と記している。ともすると、我々大人は「子どものくせに生意気だ。」、「大人の言うことに従ってればいい。」と、押さえ込むことがなかつたろうか。そのような風潮の中では、児童生徒が自分の気持ちや考え、欲求を抑え込んでしまうことが危惧される。さらに、沢崎俊之氏は、「自分の気持ちや考えを言ってみたとしても、大人や友だちから無視されたり、きちんと取り合ってもらえなかったり、お説教されたりするばかりなら無力感に陥っても不思議はありません」と記している。児童生徒自身が自分の気持ちや考え、欲求を表現することをためらわないように、環境を整備する必要がある。そのためには他者尊重のコミュニケーションであるアサーションの効果は大きいと考える。

ウ 児童生徒がすべての人の話に耳を傾ける必要性

社会自体が実力のあるものが勝って当然という「実力主義」の考えに傾いている



と思われる。「弱いものはとるに足りない、無視して当然だ。」という考え方が児童生徒に浸透していけば、弱い立場の人の話に耳を傾ける必要を感じなくなると思われる。相手のことも大切にするとこのスタンスに立つアサーションを身に付けることで期待できるものは大きい。

図2 人のやりとりのプロセス

「自分の気持ちをきちんと伝える」技術を基に作図

(6) 児童生徒にアサーションを伝える意義

ア 希望や可能性、自信を得ることができる

- ・自分の気持ちや考え、欲求は大事にしてよく、またそれは、誰もがもっている権利であることを知るだけでも意味は大きい。

- ・自分の言動に、攻撃的、非主張的、アサーティブといった表現の種類があると知ること、自覚のないままキレたり、相手を見殺ししたりするのでなく、別の表現方法を試みる余地が生まれる。
- ・他者との葛藤はいけないことではなく、起こりうること、それらの解決に向けて自分たちにできることを探してよいこと、困ったときには助けを求めてよいことなどに気づき、一歩前に踏み出せる。

イ 児童生徒の自分づくりや関係づくりの核としての意義をもつ

- ・アサーションは、自己犠牲的な配慮や思いやりでなく、他者否定的な実力主義でもなく、さらに他者も自分も傷つけないという「やさしさ」とも違う。相互的な存在としての他者との交流を基盤にした、人と人の在り方の提案である。

(7) 三つのタイプの自己表現

ア 攻撃的（アグレッシブ）な自己表現

自分は大切にするが、相手を大切にしない自己表現のことである。自分の気持ちや考え、欲求をはっきり伝え、自分の権利のために自己主張はするが、相手の気持ちや考え、欲求は無視したり、軽視したりするので、結果として相手に自分を押し付けることになる。常に相手を支配し、相手に勝とうと思ったり、相手より優位に立とうとする態度を取ったりする。相手に自分の思いどおりになってほしいと思っているので、相手の犠牲の上に立った自己表現である。

(例) 給食時、配膳の列に割り込まれたときに「おい、〇〇。みんな並んでいるんだから、ちゃんと後ろに並べよ。」と自分の言いたいことだけを伝える。

イ 非主張的（ノン・アサーティブ）な自己表現

相手は大切にするが、自分を大切にしない自己表現のことである。自分の気持ちや考え、欲求を表現しなかったり、し損なったりするために、自分で自分を踏みにじることにつながる。表現しないことと、表現し損なうことの両方が含まれる。相手に配慮しているようで実は相手に素直でなく、自分に対しても不正直な行為である。相手を立て、察することを期待し合う文化の中で生きているので、非主張的な傾向の強い人が多い。

(例) 給食の例で言えば、腹が立つのに、一人でブツブツ言いながら、そのまま我慢してしまっている。

ウ アサーティブな自己表現

自分も相手も大切にしたい自己表現のことである。自分の気持ちや考え、欲求を率直に、正直に、その場に合った適切なやり方で表現する。相互尊重の精神と相互理解を深めようという精神の現れである。しかし、アサーティブになれば、自己の欲求がとおるというものではなく、お互いの気持ちや考え、欲求の相違によって葛藤が起こることもある。そこで安易に妥協しないで、お互いの意見を出し合って、譲ったり譲られたりしながら歩み寄っていき、それぞれに納得のいく結論を出そうとする。この過程を大事にする。すなわち、葛藤が起こることを覚悟し、葛藤が起きてもそれを引き受けていこうとする気持ちがアサーションの特徴である。

(例) 給食の例で言えば、「みんな並んでいるから、後ろに並んでくれない？」と冷静にはっきり伝える。

(8) 茨城バージョンの取組

これまで、アサーショントレーニングというと一単位時間を使い行われてきた。しかし、アサーションが定着しない理由の一つとして、繰り返し行う時間の確保が難しいことがあるのではないだろうか。教育課程の編成上やむを得ないことかもしれないが一度のトレーニングを実践したきりでは定着しない。トレーニングなので、繰り返し実践しなくては効果が薄い。ふだんの生活の中で般化を図ろうにも、しだいに意識は薄れていく。そうした現状を踏まえ、茨城バージョンではショートトレーニングの開発に重点を置いた。これまで行われてきたように、一単位時間を使い基本的な考え方や感情の伝え方、受け取り方等に触れるロングトレーニングを基本に、朝の学活や帰りの会等の短い時間で実施できるようなショートトレーニングを加えることで、より効果的にアサーティブな表現が身に付くと考えた。

このショートトレーニングでは、学校生活に即した多くの場面を設定している。例えば、“掃除をやらない友達を注意する場面”や“休み時間の過ごし方について意見が食い違った場面”などである。学校生活でありがちな場面を設定し、その場に即したアサーティブな表現を知ることが重視された。言わば、シャワーのようにアサーティブな表現を浴びせ続けることで、まずアサーティブな表現を知ること、すなわち、思考の変化をねらったものである。この思考の変化は、小さなものかもしれないが、小さな点がやがてつながり線になり、一日を通してアサーティブな表現に触れることができるようになると思った。

(9) アサーションを身に付けることで期待できる効果

ア 人権意識の高揚

アサーティブにコミュニケーションしていくこと自体が、自分の人権を日常的に大切にすることになるので、他者の人権も実感を伴いながら尊重していくことにつながる。

イ 自尊感情の高揚

アサーティブになろうと心がけることで、人は自分の自尊感情を実感したり醸成しやすくなる。逆に、自尊感情がある人ほど他者を尊重しようという傾向

があり、自分と他者の意見の相違に寛容になりやすい。

ウ 望ましい人間関係の構築と学びの質の高まり

自他を尊重するアサーティブな表現を身に付けることで、人間関係上のトラブルに発展することを未然に防ぐことができる。また、授業においては、人権意識や自尊感情の高揚から積極的に発表したり、他者の意見を尊重したりすることができるようになることで、学習意欲の向上が期待できる。特に話し合い活動では、相手の意見をよく聴き、考え、自分の意見を伝えるなどの学びの質の高まりに期待できる。

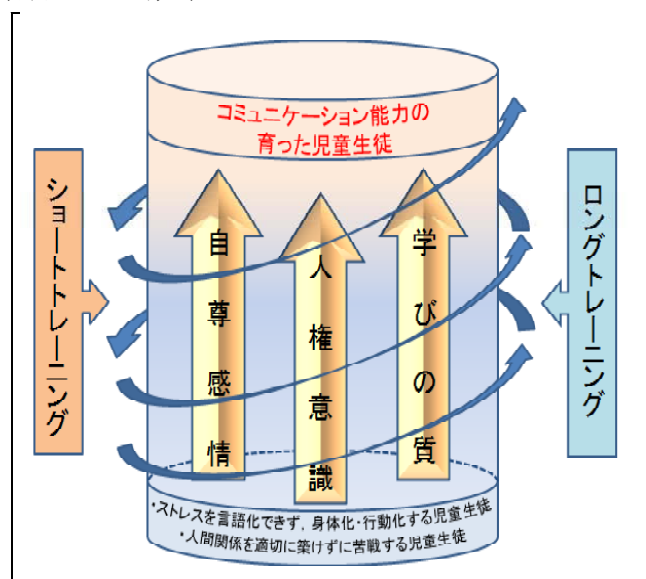


図3 研究の構想図

3 調査研究

(1) 「コミュニケーションに関する調査」の概要

ア 調査の目的

児童生徒の学校生活における友達とのかかわりについて調査し、児童生徒のコミュニケーション能力の実態を明らかにしていく。

イ 調査の方法

(ア) コミュニケーション能力の実態や変容を見るために、アンケートの調査を実施する。

(イ) 質問紙（4件法）による調査を行い、その回答の平均値を用いて実態の変容を見ていく。

※ショートトレーニングのアンケート調査は、各校種ごとに抽出した学級において、ショートトレーニング実施の1週間前と実施後の2回実施した。

(ウ) アンケート対象を次のように分け、アンケート調査を行う。

- a 小学生1～4年生用アンケート
- b 小学生5，6年生用アンケート
- c 中学生3学年同一アンケート
- d 高校生3学年同一アンケート

※アンケート用紙は、参考資料1～4（P23～26）を参照

(エ) 調査時期と対象者

アンケートの人数は、平成24年度と平成25年度では進級のため母体数が違う。

○ 平成24年度

- a アンケート調査時期（7月・12月・3月）
- b 対象者

- ・ 小学生1年生～4年生 584人（男子 291人，女子 293人）
- ・ 小学生5，6年生 289人（男子 147人，女子 142人）
- ・ 中学生 1,035人（男子 550人，女子 485人）
- ・ 高校生 455人（男子 313人，女子 142人）

○ 平成25年度

- a アンケート調査時期（4月・7月）

※高校生は、クラス替えがないため7月のみ実施

※ショートトレーニングは、6月から7月に実施

- b 対象者

- ・ 小学生1年生～4年生 612名（男子 297人，女子 315人）
- ・ 小学生5，6年生 335名（男子 178人，女子 157人）
- ・ 中学生 1,166名（男子 587人，女子 579人）
- ・ 高校生 452名（男子 305人，女子 147人）

ウ 分析

分析は、小学校・中学校・高等学校の児童生徒の学校生活における友達とのかかわりについて、平成24年7月から平成25年4月までの結果を比較し実態の変容を検討した。

特に、学年別に次のような視点で、アサーションを身に付けることで期待できる姿の変容を見取り検討した。

- 小学生「望ましい人間関係の構築と学びの質の高まり」
 - (1～4年生：アンケート項目 3, 4, 7)
 - (5・6年生：アンケート項目 2, 7, 12)
- 中学生「人権意識の高揚」
 - (アンケート項目 4, 6, 16, 18, 20)
- 高校生「自尊感情の高揚」
 - (アンケート項目 2, 3, 4, 7, 17)
- ※ 児童生徒向けアンケート
 - ①項目1, 5 : あいさつができる
 - ②項目2, 3 : 注意することができる
 - ③項目4, 6 : 断ることができる
 - ④項目7, 8, 9 : 自分の考えが言える
 - ⑤項目10, 11, 12 : 感謝・励ましの言葉が言える
 - ⑥項目13, 15 : 助けを求める言葉が言える
 - ⑦項目14, 16, 17 : 学習中 (質問・聴く・発表)



(2) 調査の分析

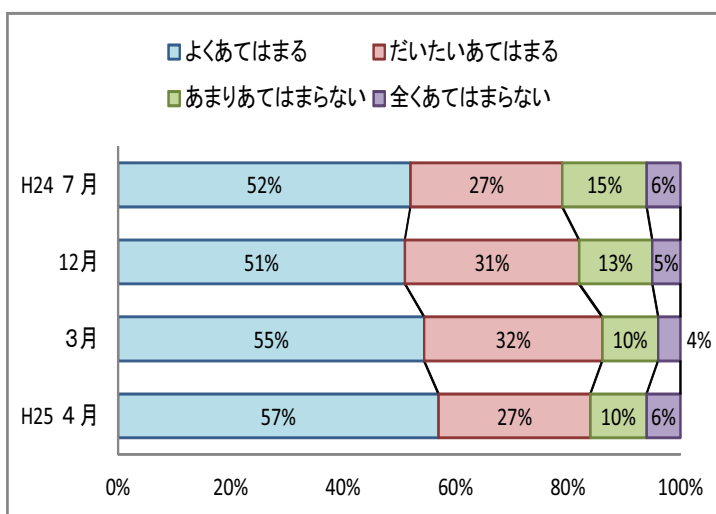
①小学生の調査結果

○小学校1～4年生

<ロングトレーニング>

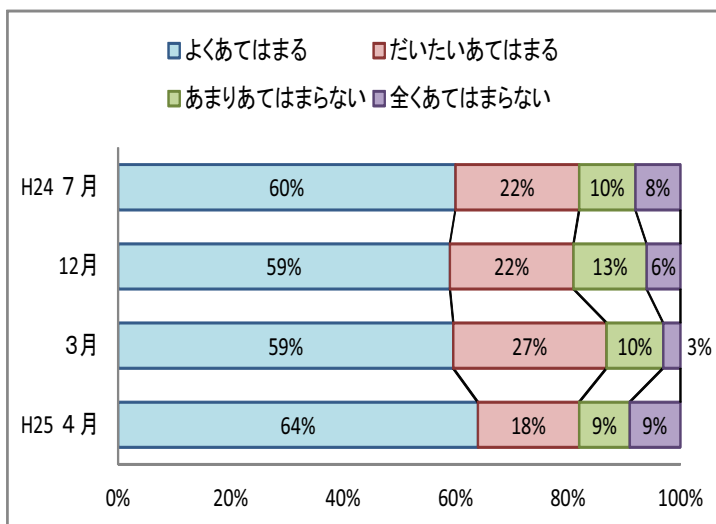
項目3

あなたは、自分の気持ちや考えを友達に言えますか。



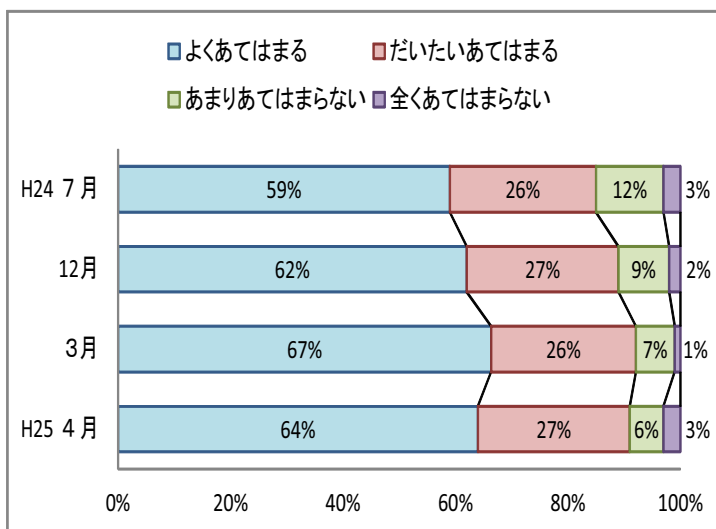
項目4

あなたは、友達に嫌なことをされたら「いや。」と言えますか。



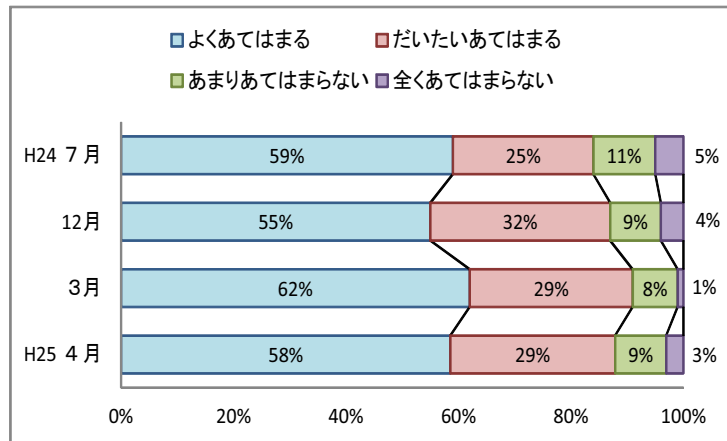
項目5

あなたは、友達が困っていたら、優しく助けてあげられますか。



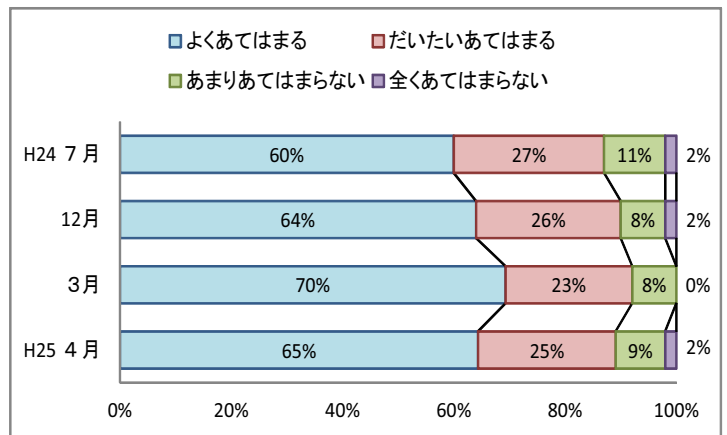
項目 7

あなたは、友達が間違っていたら、優しく教えてあげられますか。



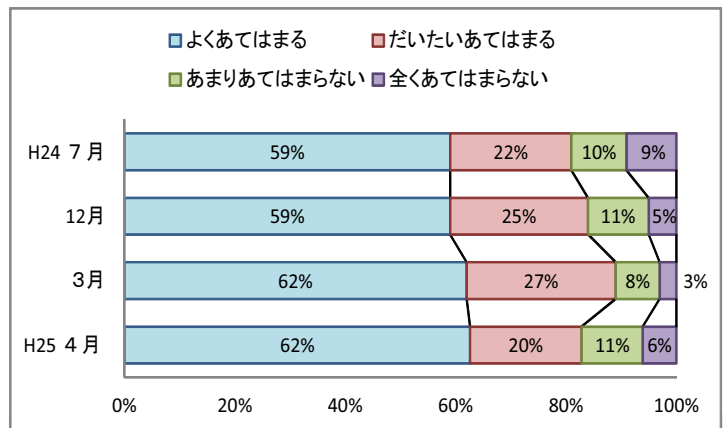
項目 8

あなたは授業中、友達の話をしっかり聴いていますか。



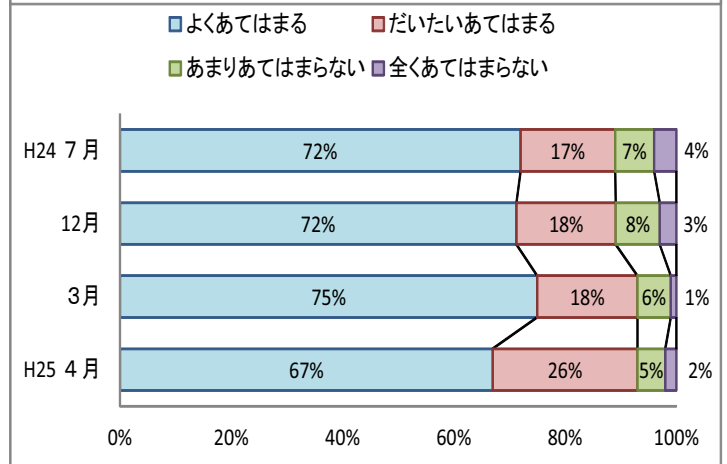
項目 9

あなたは勉強で分からないところがあったとき、友達に「分からないから教えて。」と聞くことができますか。



項目 10

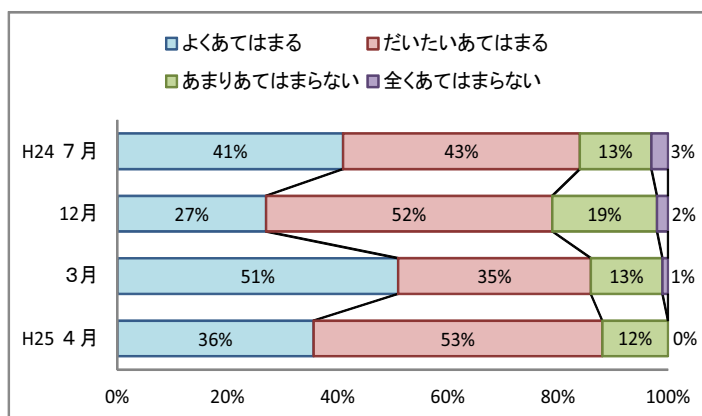
あなたは、勉強で友達に、「分からないから教えて。」と言われたとき、分かることだったら、優しく教えてあげることができますか。



○小学校5, 6年生
 <ロングトレーニング>

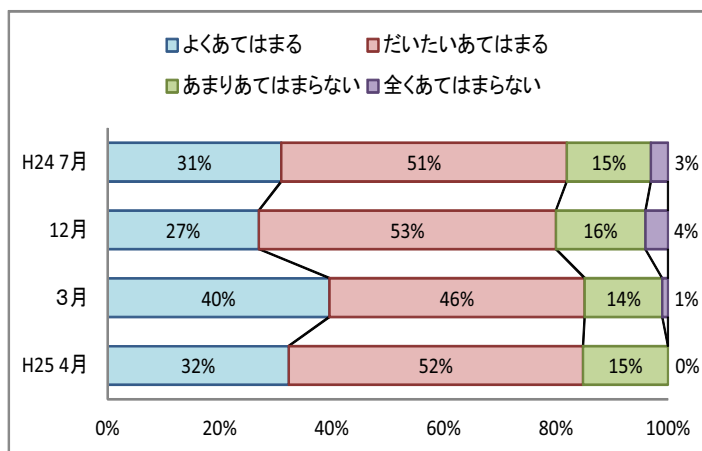
項目 2

友達のしていることが迷惑
 だったときは、やめてくれる
 ように、話すことができます
 か。



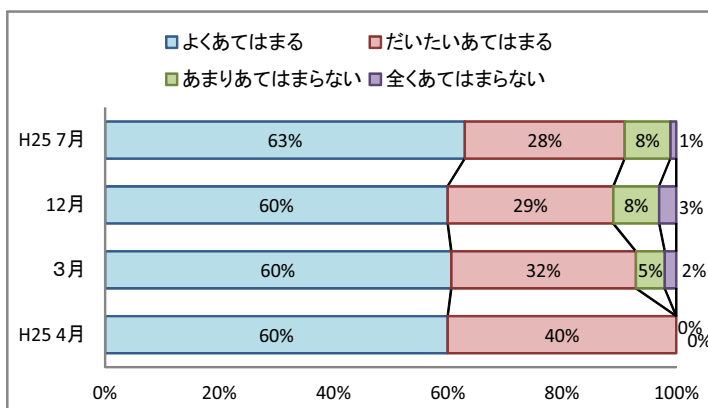
項目 7

友達が間違っていることに
 気付いたときは、相手の気持
 ちを考えて間違っていること
 を相手に伝えることができま
 すか。



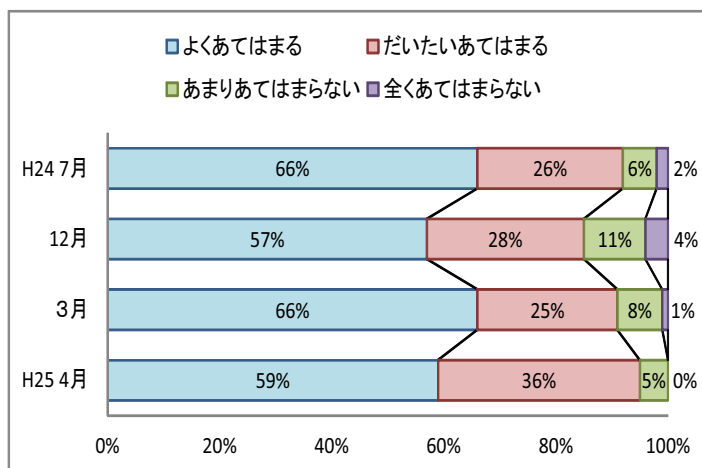
項目 12

友達が一生懸命やって失敗
 してしまったときは、「大丈
 夫だよ。」などと励ますこと
 ができますか。



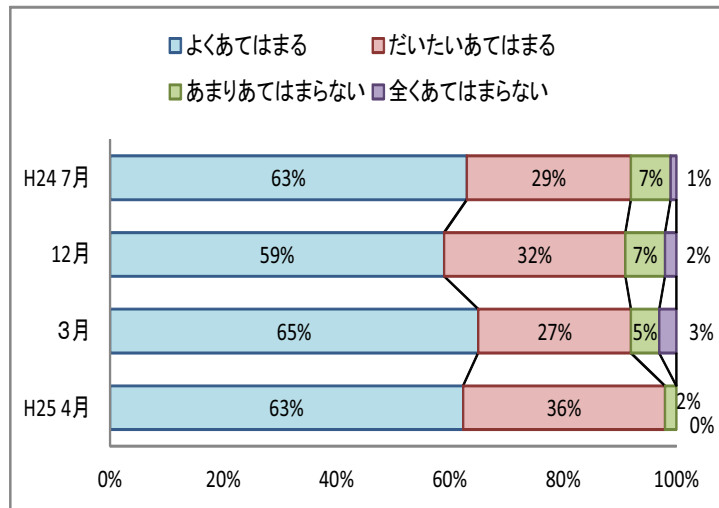
項目 13

勉強で分からないところが
 あったときは、友達に聞くこ
 とができますか。



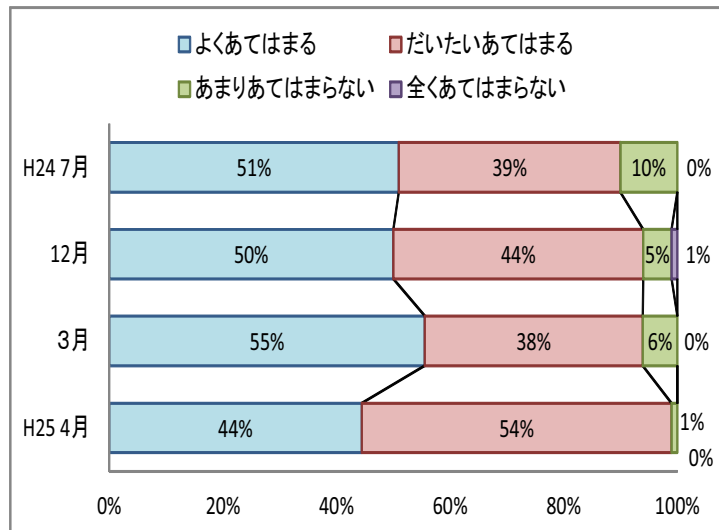
項目14

友達に「分からないから教えて。」と言われたときは、分かることだったら、優しく教えることができますか。



項目16

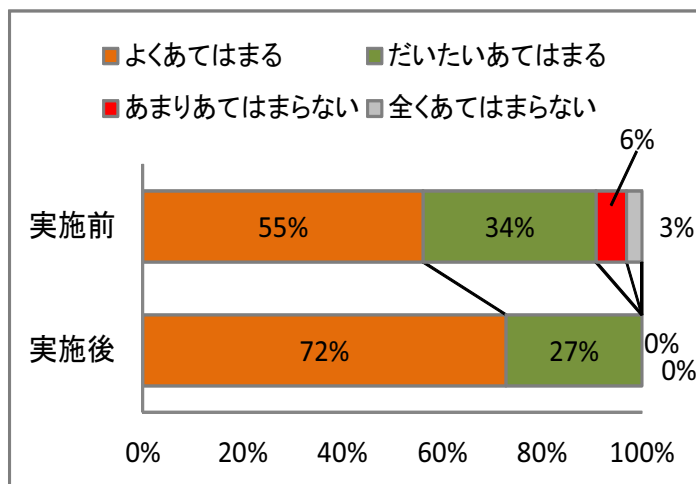
授業中、友達の見聞をしつかりと聴くことができますか。



<ショートトレーニング>

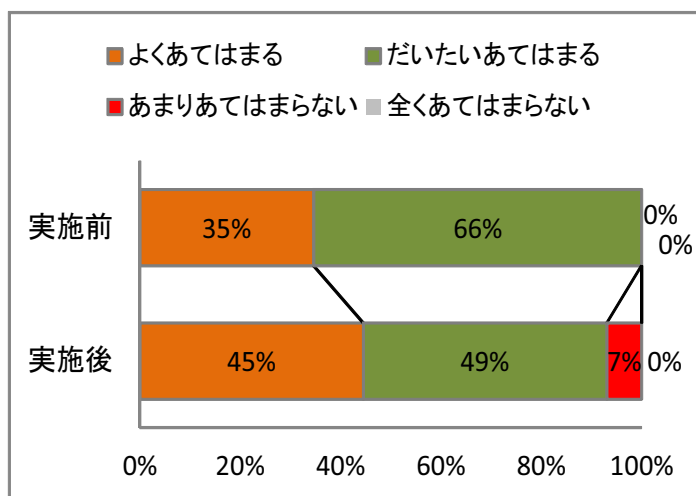
項目 5

自分と同じくらいの年の人と話すことができる。



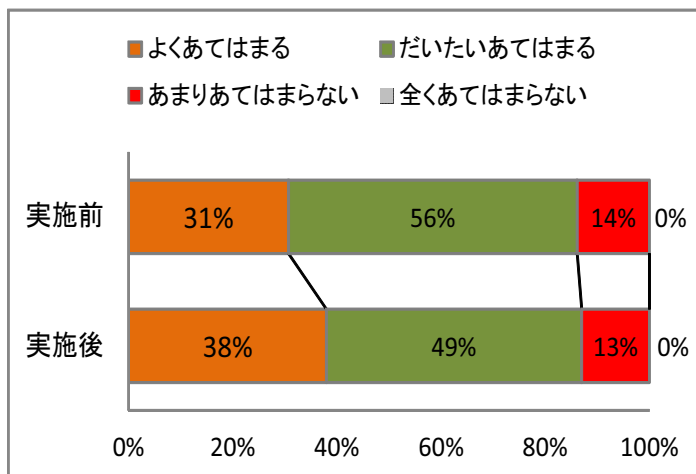
項目 6

友達が気持ちを打ち明けたとき、なんて言ってあげていいのかわかる。



項目 9

友達に自分の考えや気持ちを伝えることができる。



<低・中学年>

「項目3」は、望ましい人間関係づくりの第一歩である自分の気持ちや考えを友達に伝えることができるかについての質問項目である。低・中学年では、ふだんの生活指導の成果もあり、79%の児童が、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」と考えている。1年間トレーニングを継続していく中で、更に84%と向上している。

「項目4」は、自分が嫌なことを相手に表現することができるかという質問項目である。より高いレベルでの自己表現であるためか、平成24年7月から平成24年12月には大きな変化は認められなかったが、平成25年3月では「だいたいあてはまる」への推移が増えている。

「項目5」、「項目7」は、友達の間違いや困り感へのアサーティブなかわりができるかについての質問事項である。平成25年4月には、クラス替えや1年生が調査対象者に入ったためか低下傾向が見られるが、1年間を通して、徐々に「よくあてはまる」と答えた児童数が増加している。

「項目8」、「項目9」、「項目10」は、授業での学びの質の高まりを問う質問項目である。「項目8」では、友達の話をお聴く意識の高まりが、1年間を通して向上していることが見られた。「項目9」、「項目10」では、勉強を教えてほしいという自分たちの欲求を伝え、教え合おうとする意識が1年間を通して高まっていることが分かった。児童相互の学び合いができるようになっていったと考えることができる。

<高学年>

「項目2」や「項目7」は、迷惑だという気持ちや間違いを相手に伝えることができるかという質問項目である。平成24年7月から12月にかけて低下傾向が見られるが、1年間を通して見ると向上している。

「項目12」は、友達の失敗に対して励ますことができるかの質問項目である。「あてはまらない」、「全くあてはまらない」に答えた児童が0%になるなど、友達の気持ちを考えながら、かかわっていこうとする意識の向上が見られた。

「項目13」、「項目14」、「項目16」では、低・中学年同様、友達の話をお聴く意識の高まりや自分と友達の相互のコミュニケーションが取れるようになり、互いの学び合いができるようになっていっていると考えることができる。

ショートトレーニングでは、「友達への話し方」についてのトレーニング実施前後の調査である。「項目5」、「項目9」の話をしたり気持ちを伝えたりする内容で「よくあてはまる」への推移が大きく、1回のトレーニングでも効果が現れることが分かる。

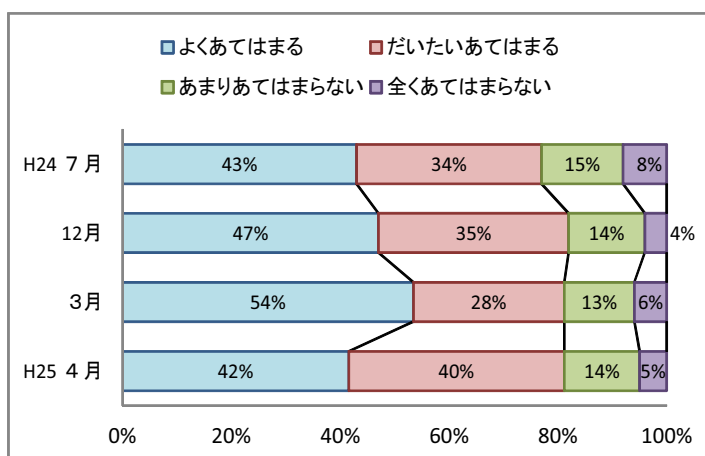
以上のように、アサーションのトレーニングを継続していくことで、望ましい人間関係を構築していくための意識と行動の向上が見られることが分かる。また、児童相互のアサーティブなコミュニケーションが向上すると共に、友達を大切にする態度が身に付き、学習課題に対して学び合うことができるようになるなど、学びの質の向上も見られた。ショートトレーニングにおいても、1回のトレーニングでも児童の意識や行動を向上させるものになっていることが分かった。

②中学生の調査

<ロングトレーニング>

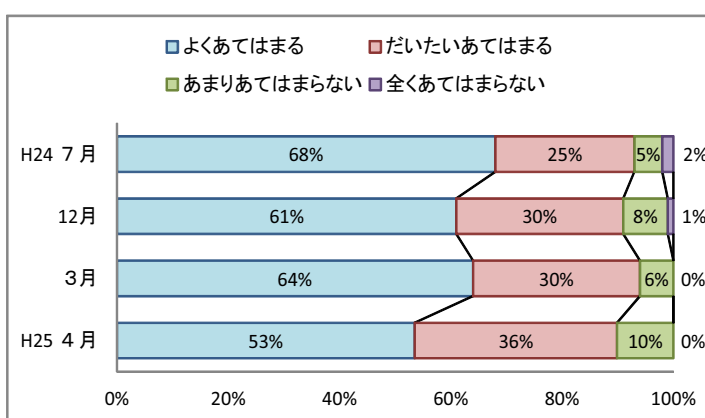
項目 4

勉強しているところに、友達が遊びに来たときは、理由を言って断ることができますか。



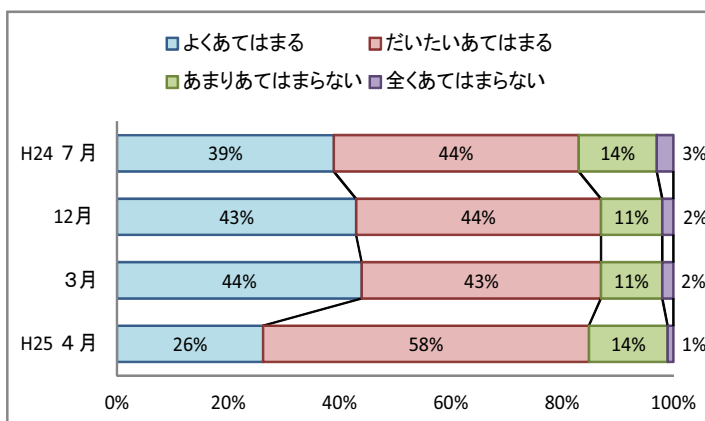
項目 6

友達から用事を頼まれてもできないときには、理由を言って断ることができますか。



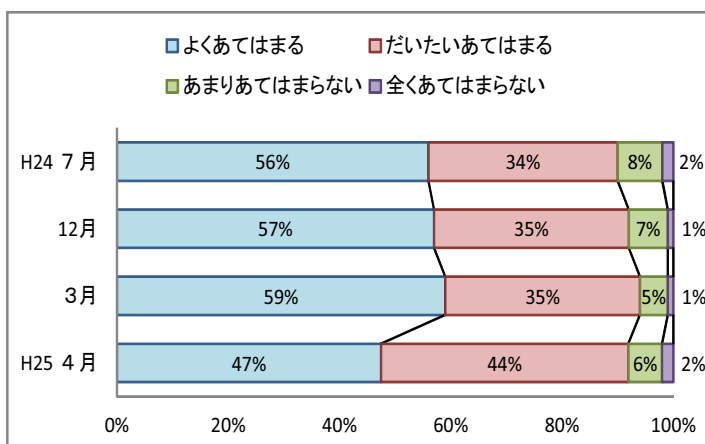
項目 7

友達が間違っていることに気付いたときは、相手の気持ちを考えて間違っていることを相手に伝えることができますか。



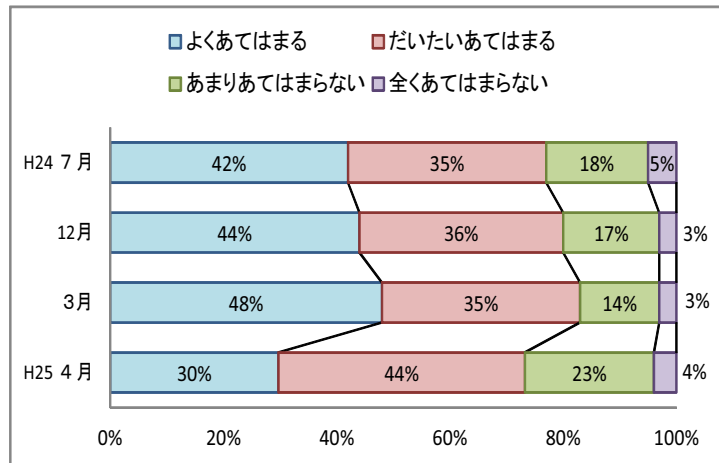
項目 16

授業中、友達の意見をしっかりと聴くことができますか。



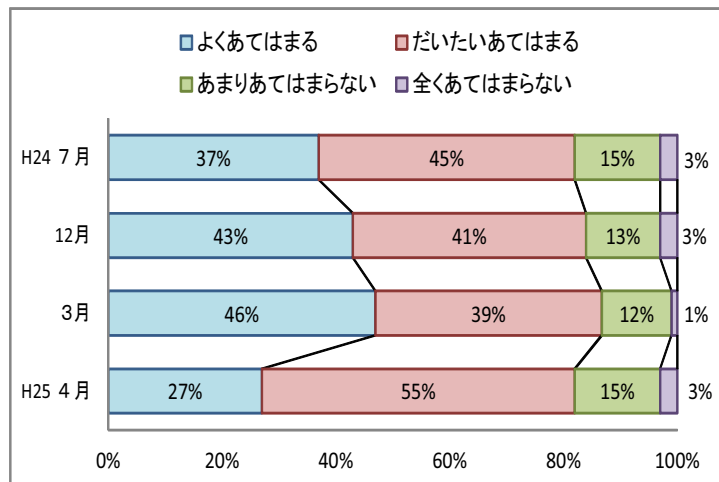
項目18

友達と話をするときは、分かりやすいように身振り手振りを使いながら話すことができますか。



項目20

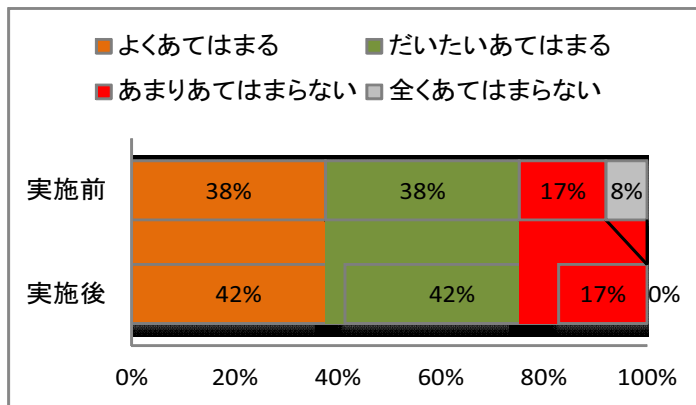
友達の気持ちを考えて言葉を使うことができますか。



<ショートトレーニング>

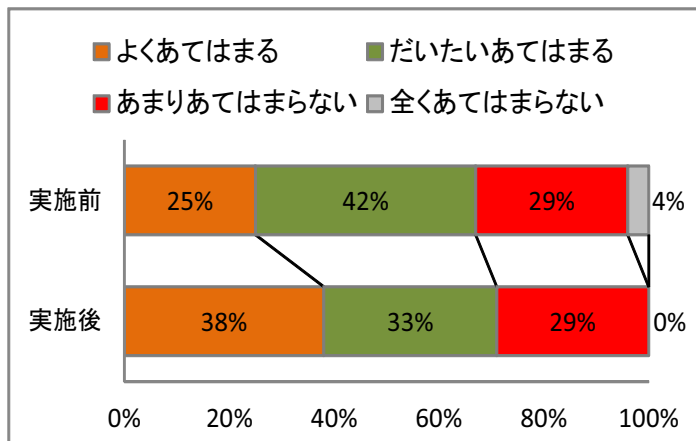
項目 2

人にどう話しかけたらいい
のか、どう会話を始めたらい
いのか知っている。



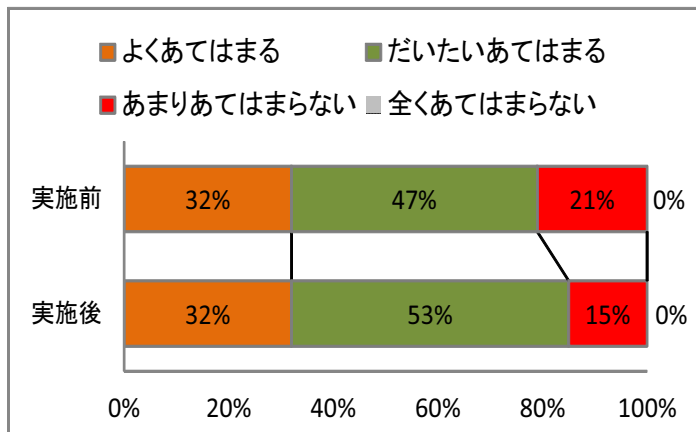
項目 4

自分の感情を表現する方法
を知っている。



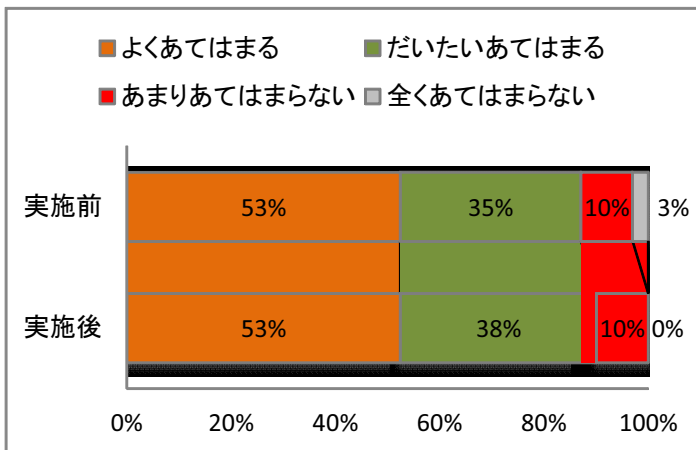
項目 6

友達の話を相手の身になっ
て聴くことができる。



項目 7

自分の嫌なことを断ること
ができる。



「項目4」、「項目6」は、友達の誘いや用事を頼まれた時に、理由を言って断ることができるかについての質問項目である。トレーニングを継続していく中で、少しずつではあるがアサーティブな自己表現を身に付け、理由を言って断ることができるようになったと考える。「項目6」では、「あてはまる」と答えた生徒はあまり変化はないが、「全くあてはまらない」と答えた生徒が、平成24年7月から3月は、2%から0%に減っている。

「項目7」は、友達が間違っていることに対して相手の気持ちを考え、それを伝えることができるかについての質問項目である。平成24年度を見ると、徐々にではあるが相手の気持ちを考え伝えることができるようになってきていることが分かる。

「項目16」は、授業中、友達の意見をしっかり聴くことができるかについての質問項目である。授業での友達の意見等に意識をもつようになり、聴く態度の向上につながったと考える。

「項目18」は、自分の考えなどを分かりやすく伝えようとすることができるかについての質問項目である。この項目は、相手に分かってもらえるための表現をしようとする意欲面も内容に含んでいる。1年間を通して意識や行動の向上が見られた。

「項目20」は、友達の気持ちを考えて言葉を使うことができるかの質問項目である。1年を通じて意識や行動の向上が見られた。

どの項目にも言えるが、平成25年度の4月で、クラス替えによる人間関係のリセットやトレーニングを積んでいない新入生が調査対象者に入るため低下傾向が見られる。

ショートトレーニングでは、各学校で内容の違うトレーニングを行い、その実施前後のアンケート調査を行った。

「項目2」、「項目4」では、「三つの話し方：相手にさわやかに頼む方法」についてのトレーニングを行った効果が現れ、どの項目も向上が見られた。「項目6」では、「上手な話の聴き方」のトレーニング効果が現れ、意識の向上が見られた。

「項目7」は、「上手な断り方」のトレーニングの効果が現れ、「全くあてはまらない」が0%になるなど向上しているのが見られた。

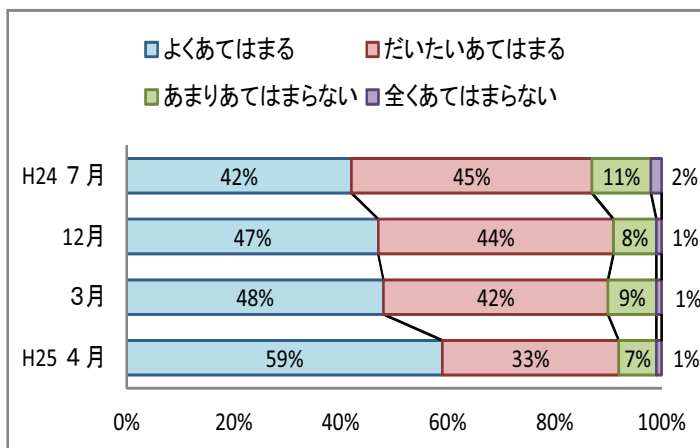
以上のように、アンケート結果を見ていくと、ロングトレーニングでは全体的に、ショートトレーニングでは、トレーニングのねらいに沿ったアンケート項目に、アサーティブな意識や態度の向上が見られた。ロングトレーニング「項目4」や「項目6」の友達から頼まれたことを断ることにに関して、「項目6」では、「全くあてはまらない」が0%になるなど、全員が意識をもつことができた。しかし、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」に大きな変化がないことから、行動に結びつきにくいスキルがあるのではないかと考える。「項目7」は、行動に移すには難しいスキルであると考えが、「上手な断り方」のトレーニングの効果が現れ、アサーティブな自己表現のよさを多くの生徒が認識したものと考え。また、1回のショートトレーニングを行うことでも、生徒の変容が見られることが分かる。また、ロングトレーニングでの「項目4,6,7,18,20」を見ると、自他のことを考えた行動や意識の向上が見られた。このことは生徒がアサーティブな自己表現のよさを認識したことから、自分にも相手にも気持ちがあつて、共に大切なものだという人権意識が向上したのものと考えることができる。

③ 高校生の調査

<ロングトレーニング>

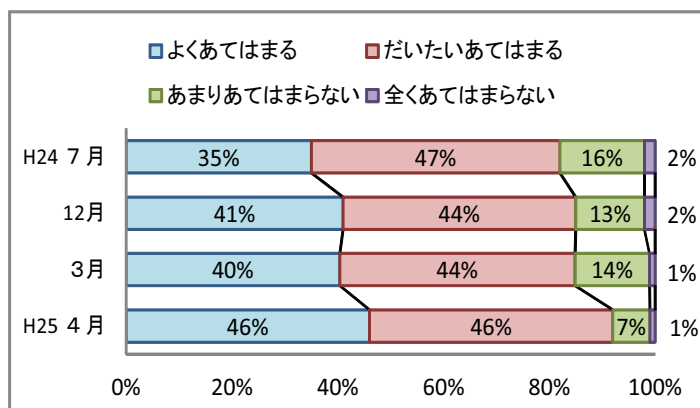
項目 2

友達のしていることが、迷惑だったときは、止めてくれるように話すことができますか。



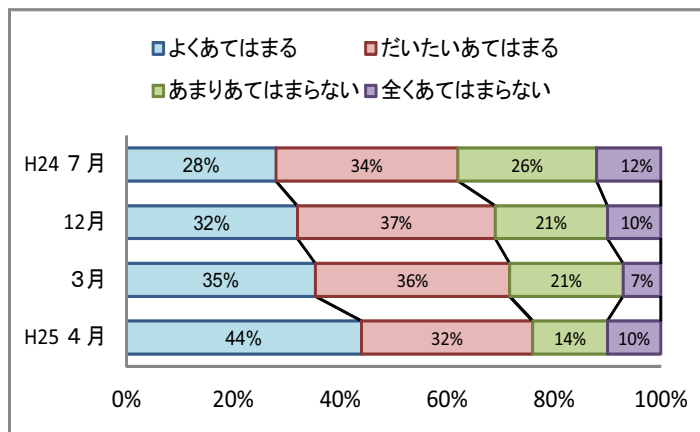
項目 3

友達が、分担した仕事をしていないときは、やってくれるように話すことができますか。



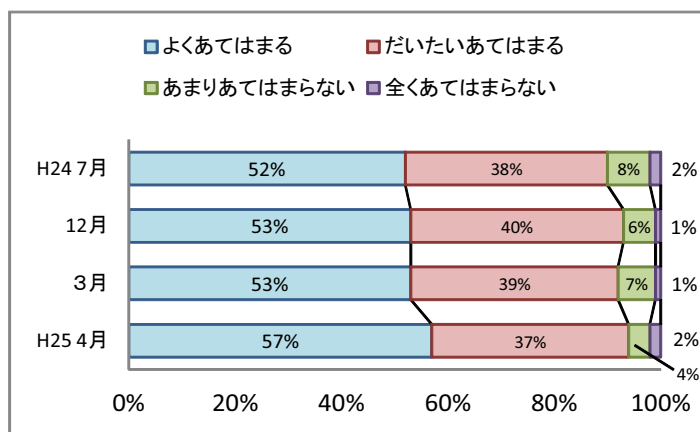
項目 4

勉強しているところに、友達が遊びに来たときは、理由を言って断ることができますか。



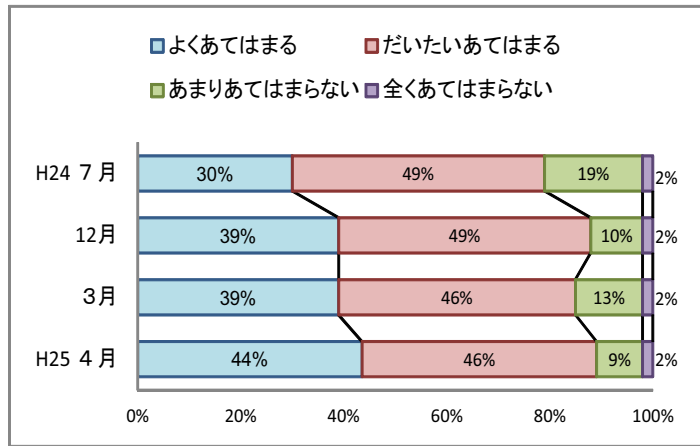
項目 6

友達から用事を頼まれてもできないときには、理由を言って断ることができますか。



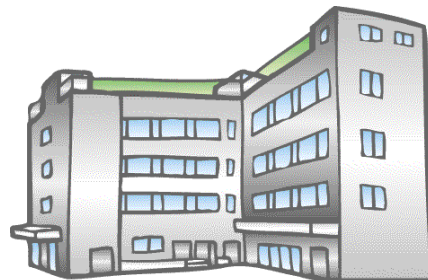
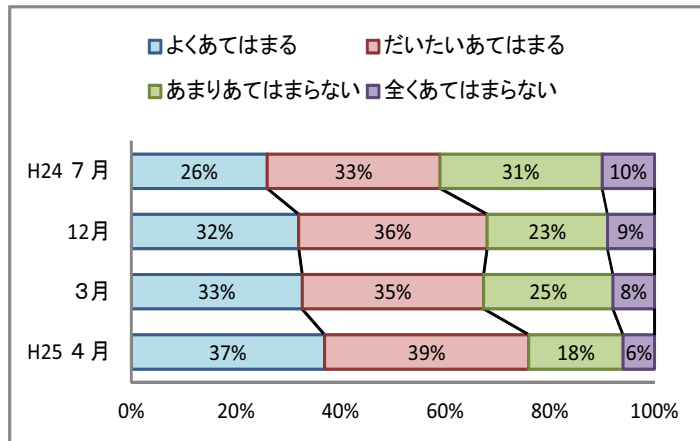
項目 7

友達が間違っていることに気付いたときは、相手の気持ちを考えて間違っていることを相手に伝えることができますか。



項目 17

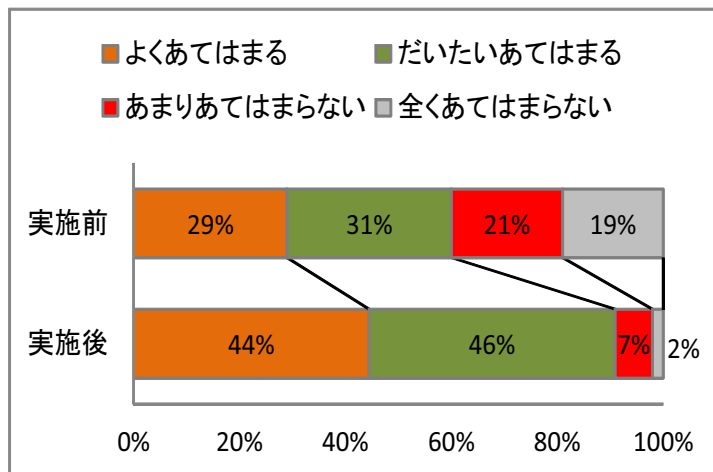
授業中、自分の意見を発表することができますか。



<ショートトレーニング>

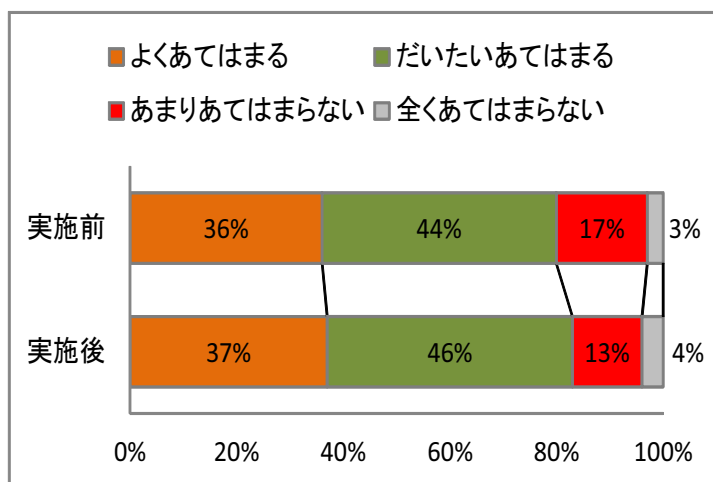
項目1

友達に自分の考えを打ち明けることができる。



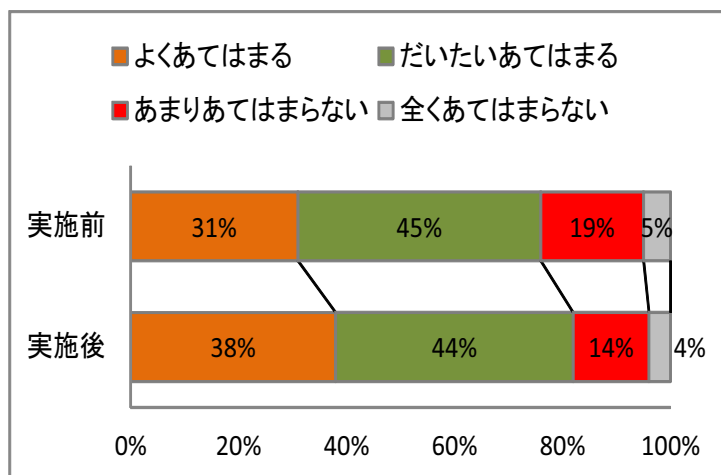
項目9

自分の感情を適切に表現することができる。



項目12

友達との仲がこじれたときどうしたらよいか知っている。



「項目2」、「項目3」は、迷惑なことをする友達や分担した仕事をしていない友達に、自分の気持ちを話すことができるかについての質問項目である。クラス替えがなかったため、平成24年7月から平成25年4月まで「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」と答えた生徒が徐々に増え、約1年後の4月に向上している。自他共に尊重する気持ちがないと、ノン・アサーティブな表現になりがちであるが、一步踏み出せる意識や感情が高まったことから、自他共に尊重する気持ちの高まりがあったと考えられる。

「項目4」は、友達が遊びに来たときに理由を言って断ることができるかについての質問項目である。「よくあてはまる」と答えた生徒が、調査期間中に28%から44%と大きく増加している。「項目6」は、友達から用事を頼まれたことに対して、理由を言って断ることができるかについての質問項目である。徐々にではあるが、「よくあてはまる」と答えた生徒が増加している。「項目4、6」共に、1年間のトレーニングを継続することで、自他を尊重するアサーティブな表現を身に付けたと考えられる。

「項目7」では、友達の間違いを相手の気持ちを考えながら伝えることができるかの質問項目である。平成24年12月から平成25年3月にかけて低下傾向が見られるが、1年間を通して見ると、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」が79%から90%と大きく向上している。「項目17」では、学びの質の高まりに関する項目である。授業において、自尊感情の高揚から積極的に発表しようとする行動を身に付けたものと考えられる。

ショートトレーニングでは、「対人関係での感情表現」についてのトレーニングを実施した前後のアンケート調査を行った。

「項目1」は、友達に自分の考えを打ち明けることができるかについての質問項目である。対人関係での感情表現を学んだことから、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」が大きく増加し、「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」は、大きく減少した。「項目12」は、友達との仲がこじれたとき、どうしたらよいか知っているかについての質問項目である。対人関係への対処の仕方へのトレーニングを行った後なので、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」と答えた生徒が増加した。

「項目9」は、自分の感情を適切に表現することができるかについての質問項目である。あまり変化がないことから、トレーニングによって、すぐに効果の現れるスキルや感情もあるが、「項目9」のように、すぐに効果が現れにくいスキルや感情があるのではないかと考える。効果の現れにくいスキルや感情には、継続的にトレーニングを入れていくことが必要ではないかと考えられる。

以上のように、1年間のトレーニングの中で自尊感情が高まり、自分にとって嫌なことなどを、きちんと相手に伝えようとする意識や態度を身に付けていったと考える。また、すぐには効果が現れないスキルや感情があることが分かり、それについてはトレーニングの継続が必要だということが分かった。ショートトレーニングでは、すぐには効果が現れにくいスキルや感情があるものの、1回のトレーニングだけでも、一定の効果が現れることが分かった。この効果を持続させるためにロングトレーニングと組み合わせたり、ショートトレーニングを行う間隔を短くしたりすることで、大きな効果が得られるだろうと考える。

<参考資料1>

「コミュニケーション」についてのアンケート

(小学1・2年生)

せいべつ (おとこ おんな)	がくねん () 年
---------------------	-----------------------

 よくあてはまる  だいたいあてはまる  あまりあてはまらない  全くあてはまらない

	こうもく	ひょうか
1	あなたは あさ ともだちに「おはよう。」のあいさつができますか。	   
2	あなたは まちがったときに「ごめんなさい。」がいえませんか。	   
3	あなたは じぶんのいいたいことをともだちにいえますか。	   
4	あなたは いやなことをされたら「いや。」といえますか。	   
5	あなたは ともだちがこまっていたら やさしくたすけてあげられますか。	   
6	あなたは ともだちに「ありがとう。」がいえませんか。	   
7	あなたは ともだちがまちがっていたら、やさしくおしえてあげられますか。	   
8	あなたは じゅぎょうちゅう ともだちのはなしをしっかりきいていますか。	   
9	あなたは おべんきょうで わからないところがあったとき おともだちに 「わからないからおしえて。」ときくことができますか。	   
10	あなたは おともだちに 「わからないからおしえて。」といわれたとき わかることだったら やさしくおしえてあげることができますか。	   

<参考資料2>

「コミュニケーション」についてのアンケート (小学3・4年生)

性別 (男 女)	学 年 () 年
------------	-----------

 よくあてはまる  だいたいあてはまる  あまりあてはまらない  全くあてはまらない

	項 目	評 価
1	あなたは、朝、友だちに「おはよう。」のあいさつが言えますか。	   
2	あなたは、まちがったときに「ごめんなさい。」と言えますか。	   
3	あなたは、自分の気持ちや考えを友だちに言えますか。	   
4	あなたは、友だちにいやなことをされたら「いや。」と言えますか	   
5	あなたは、友だちがこまっていたら やさしくたすけてあげられますか。	   
6	あなたは、友だちにお世話になったら「ありがとう。」と言えますか。	   
7	あなたは、友だちがまちがっていたら、やさしく教えてあげられますか。	   
8	あなたは、授業中友だちの話をしっかり聴いていますか。	   
9	あなたは、勉強で、分からないところがあったとき、友だちに「分からないから教えて。」と聞くことができますか。	   
10	あなたは、勉強で、友だちに「分からないから教えて。」と言われたとき、分かることだったら、やさしく教えてあげることができますか。	   

<参考資料3>

「コミュニケーション」についてのアンケート (小学5・6年生)

性別 (男 女)	学 年 () 年
------------	-----------

4 よくあてはまる 3 だいたいあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない

	項 目	評 価
1	朝、友達に会ったときは、「おはよう。」のあいさつをすることができますか。	4 3 2 1
2	友達のしていることがめいわくだったときは、やめてくれるように話すことができますか。	4 3 2 1
3	友達が分担した仕事をしていないときは、やってくれるように話すことができますか。	4 3 2 1
4	勉強しているところに友達が遊びに来たときは、理由を言って断ることができますか。	4 3 2 1
5	帰りに、友達と別れるときは、「さようなら。」のあいさつをすることができますか。	4 3 2 1
6	友達から用事をたのまれてもできないときは、理由を言って断ることができますか。	4 3 2 1
7	友達が間違っていることに気付いたときは、相手の気持ちを考えて間違っていることを相手に伝えることができますか。	4 3 2 1
8	貸したものを友達が返してくれないときは、返してくれるように話すことができますか。	4 3 2 1
9	友達の意見に賛成できないときは、理由を言って賛成できないということを話すことができますか。	4 3 2 1
10	友達がしていることですごいなと思ったときは、その気持ちを相手に伝えることができますか。	4 3 2 1
11	友達に感謝しているときは、その気持ちを相手に伝えることができますか。	4 3 2 1
12	友達が一生懸命やって失敗してしまったときは、「大丈夫だよ。」などと励ますことができますか。	4 3 2 1
13	勉強で分からないところがあったときは、友達に聞くことができますか。	4 3 2 1
14	友達に「分からないから教えて。」と言われたときは、分かることだったら、やさしく教えることができますか。	4 3 2 1
15	手伝ってほしいときは、友達に「手伝ってほしい。」と話すことができますか。	4 3 2 1
16	授業中、友達の意見をしっかりと聴くことができますか。	4 3 2 1
17	授業中、自分の意見を発表することができますか。	4 3 2 1
18	友達と話をするときは、分かりやすいように身振り手振りを使いながら話すことができますか。	4 3 2 1
19	友達と言い争いをすることはいいですか。	4 3 2 1
20	友達の気持ちを考えて言葉を使うことができますか。	4 3 2 1
21	友達とかかわりをもつことが好きですか。	4 3 2 1

<参考資料4>

「コミュニケーション」についてのアンケート (中・高校生)

性別 (男 女)	学 年 () 年
------------	-----------

4 よくあてはまる 3 だいたいあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない

	項 目	評 価
1	朝、友達に会ったときは、「おはよう。」のあいさつをすることができますか。	4 3 2 1
2	友達のしていることが迷惑だったときは、やめてくれるように話すことができますか。	4 3 2 1
3	友達が分担した仕事をしていないときは、やってくれるように話すことができますか。	4 3 2 1
4	勉強しているところに友達が遊びに来たときは、理由を言って断ることができますか。	4 3 2 1
5	帰りに、友達と別れるときは、「さようなら。」のあいさつをすることができますか。	4 3 2 1
6	友達から用事をたのまれてもできないときは、理由を言って断ることができますか。	4 3 2 1
7	友達が間違っていることに気付いたときは、相手の気持ちを考えて間違っていることを相手に伝えることができますか。	4 3 2 1
8	貸したものを友達が返してくれないときは、返してくれるように話すことができますか。	4 3 2 1
9	友達の意見に賛成できないときは、理由を言って賛成できないということを話すことができますか。	4 3 2 1
10	友達がしていることですごいなと思ったときは、その気持ちを相手に伝えることができますか。	4 3 2 1
11	友達に感謝しているときは、その気持ちを相手に伝えることができますか。	4 3 2 1
12	友達が一生懸命やって失敗してしまったときは、「大丈夫だよ。」などと励ますことができますか。	4 3 2 1
13	勉強で分からないところがあったときは、友達に聞くことができますか。	4 3 2 1
14	友達に「分からないから教えて。」と言われたときは、分かることだったら、やさしく教えることができますか。	4 3 2 1
15	手伝ってほしいときは、友達に「手伝ってほしい。」と話すことができますか。	4 3 2 1
16	授業中友達の意見をしっかりと聴くことができますか。	4 3 2 1
17	授業中、自分の意見を発表することができますか。	4 3 2 1
18	友達と話をするときは、分かりやすいように身振り手振りを使いながら話すことができますか。	4 3 2 1
19	友達と言い争いをすることはいいですか。	4 3 2 1
20	友達の気持ちを考えて言葉を使うことができますか。	4 3 2 1
21	友達とかかわりをもつことが好きですか。	4 3 2 1

4 実践研究

(1) 小学校（望ましい人間関係の構築と学びの質の高まり）

ア ショートトレーニング（低学年）

【1学年 作り方を教えてもらいたいとき】

「友達に作り方を教えてもらいたいときのお願いの仕方」という行動に焦点を当て、生活科へとつなげた実践

(ア) 学級の実態

穏やかな児童が多い。しかし、自分の気持ちを伝えるのに言葉が足りなかったり、十分でなかったりするために言い争いになることもある。特に学習の場面において、友達に教えてほしいことを伝えることができず、教師からの指示をまっている児童も多い。

(イ) ねらい

作り方を教えてもらいたいときのお願いの仕方を学習する。

(ウ) 準備物

- ・場面絵（場面を説明するための掲示物）
- ・顔絵「ジャイアン(いばりやさん)」、「のび太くん(おどおどさん)」、「しずかちゃん(さわやかさん)」
- ・折り紙

(エ) 活動の実際

(15分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 アサーショントレーニングのねらいの確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「ともだちにつくりかたをおしえてもらいたいときのおねがいのしかたがわかる」 </div>	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・「ジャイアン」、「のび太くん」、「しずかちゃん」の顔絵を用いながら教師が、前回のトレーニングのデモンストレーションを行い、児童の関心を高める。
2 トレーニングを行う。 (1) 場面を知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> お楽しみ会で使う飾りを作っていますが、なかなか上手にできません。隣のAさんは折り紙の上手なBさんに手伝ってもらっているのでどんどん進んでいます。自分も手伝ってもらいたいと思っていますがなかなか言い出せません。こんなときあなたならAさんにどのようにお願いしますか？ （教師読み用） </div> (2) アサーティブな言葉かけを話し合う。	11分	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が場面の状況を理解しやすくなるように、場面絵を提示する。 ・自分も相手も大切に話す話し方があることに気付くことができ

<p>(3) 二人組でロールプレイを行う。</p> <p>3 シェアリングを行う。</p>	<p>2分</p>	<p>るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役になりきってロールプレイを行う約束の確認をする。 ・じゃんけんをしてどちらが最初にお願いする役かを決めるように指示する。 ・活動できない児童にはグループの中に入って助言する。 ・事前に折っておいた折り紙を活用し意欲を高める。 ・話し方や声の出し方、態度を変えることで相手の気持ちが変わることを確認する。 ・スキルは、一回では身に付かないので、今日学習したことをふだんから意識して行うことが大切であることを伝える。
---	-----------	--

◇ ロールプレイにおける児童の活動例

ペア①

Aさん：（黙って折り紙を折っている。）

Bさん：「ねえ、それどうやって折ったの？教えて。」

Aさん：「いいよ。じゃあ一緒にやろう。まずここを三角に折って・・・。」

Bさん：（A男の方に体を寄せながら一緒に折り始める。）

（完成後ニッコリ笑って）「ありがとう。」

Aさん：「どういたしまして。」

ペア②

Cさん：（黙って折り紙を折っている。）

Dさん：「ねえ、作り方教えてくれない？」

Cさん：「いいよ。じゃあ一緒に作ろう。もう一回私も最初から折るね。」

Dさん：（C子の手元をのぞき込みながら、一緒に折り始める。）

Cさん：「ここがちょっと難しいんだよ。だから・・・」

（実際にやりながらコツを教える。）

Dさん：「ありがとう。」（ニッコリ笑う。）

Cさん：「どういたしまして。作り方分かった？」

Dさん：「うん。また作ってみるね。」

◇ 生活科での児童の活動の様子

【児童①】

Fさん：「作り方が分からないの・・・教えて・・・。」

Eさん：「Fさん，水車の作り方が分からないの？じゃあ，定規と鉛筆を持ってこっちに来てくれる。」

Fさん：「ありがとう。」（E子のところへ行く。）

Eさん：（G子に寄り添いながら）「ここに線を引いて。次は・・・。」

【児童②】

Gさん：（水車も帆掛け船も完成し，試しも終わったので）

「だれかやり方教えてほしい人？」

Hさん：「ねえ，水車が上手く回らないんだけど教えて。」

Gさん：（水車を見て）「じゃあ水を羽根のここに当ててみて。」

Hさん：「あ，回った。ありがとう。」

Gさん：「どういたしまして。」

(オ) 成果と課題

- 前時までのトレーニング（相手も自分もさわやかになる話し方）を想起させたことで，児童は「さわやかな話し方」を意識しながら，相手に話しかけることができた。
- 生活科の授業では，自分から「教えて」とやり方を友達に聞いたり，教えたりする姿が見られるようになった。いつもは非主張的な児童も，積極的に友達に声をかけ，作り方を教えてもらいながら製作することができ，気付きの質を高めることができていた。
- △ 授業の終末において，「今日やったトレーニングが，～に生きてくるといいね。」と具体的場面を伝えた方が，児童のその後の生活により一層有効になると感じた。



イ ロングトレーニング（低学年）

【1学年 友達と同時に列に並んだときの話し方】

「列に並ぼうとした時偶然一緒になってしまった場面の話し方」に焦点を当てて体育科へとつなげた実践

(ア) 学級の実態

穏やかな児童が多い。しかし、自分の気持ちを伝えるのに言葉が足りなかったり、十分でなかったりするためにささいなことで言い争いになることもある。特に学習活動では、友達に順番を譲ることができずにトラブルになってしまう児童も見られる。

(イ) ねらい

列に同時に並んだときの話し方を学習する。

(ウ) 準備物

- ・場面絵（場面を説明するための掲示物）
- ・顔絵「ジャイアン(いばりやさん)」、「のび太くん(おどおどさん)」、「しずかちゃん(さわやかさん)」

(エ) 活動の実際

(45分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 アサーショントレーニングのねらいの確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「ともだちとどうじにれつにならんだときはなしかた」を考えよう。 </div>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・「ジャイアン」、「のび太くん」、「しずかちゃん」の顔絵を用いながら教師が、前回のトレーニング「つくり方を教えてもらいたいとき」のデモンストレーションを行い、児童の関心を高める。
2 トレーニングを行う。 (1) 場面を知る。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 手を洗おうと水道に並んだら、友達と一緒にになりました。あなたは早く手を洗いたいと思っています。こんな時あなたなら友達にどのように声をかけますか？ （教師読み用） </div> (2) 三つの話し方を話し合う。 (3) 二人組でロールプレイを行う。	33分	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が場面の状況を理解しやすくなるように、場面絵を提示する。 ・「ジャイアン」、「のび太くん」、「しずかちゃん」それぞれの話し方を考えることで、三つの話し方に気付くことができるようにする。 ・ロールプレイの約束を確認し、

<p>3 シェアリングを行う。</p>	<p>相手の気持ちに気付けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの役から次の役へと移る時は、役の切替のため一拍おくようにする。 ・活動できない児童にはグループの中に入って助言する。 ・話し方や声の出し方、態度を変えることで気持ちが変わることを振り返りシートに記入し確認する。 ・話し手側も相手側も気持ちが良いのは「さわやかさん」であることを確認する。 ・スキルは、一回では身に付かないので、今日学習したことをふだんから意識して行うことが大切であることを伝える。
---------------------	--

◇ ロールプレイにおける児童の活動例

いばりやさんペア①

相手役：（いばりやさんと同時に列に並ぶ。）

いばりやさん：（相手を押し退けるように）「なんだよ。」

相手役：「どっちが先に並ぶ？」

いばりやさん：「何言ってるんだよ。ぼくに決まっているだろう。早く手を洗いたいんだよ。どいて。」

相手役：（不満そうにいばりやさんの後ろに並ぶ。）

おどおどさんペア②

相手役：（おどおどさんと同時に列に並ぶ。）

おどおどさん：（黙って相手の後ろに並ぶ。）

相手役：「いいの？」

おどおどさん：「う、うん。」

さわやかさんペア③

相手役：（さわやかさんと同時に列に並ぶ。）

さわやかさん：「いっしょになっちゃったね。お先にどうぞ。」

相手役：「いいよ。さわやかさんこそお先にどうぞ。」

さわやかさん：「ありがとう。じゃあ悪いけど先に使わせてもらうね。」
相手役：（にこやかにさわやかさんの後ろに並ぶ。）

◇ 体育科（ボールゲーム）での児童の活動の様子

【児童①】

Aさん：（外野にいたBさんと同時にボールを取る。）
「じゃんけんで決めよう。」
Bさん：「いいよ。」
Aさん：「ああ、負けちゃった。」
Bさん：「じゃあ投げるね。今度は渡すからね。」

【児童②】

Cさん：体育が得意なCさん。この日もボールゲームで大活躍していた。試合が少し進んだ頃、ボールが手元に来たとき
「ええと、あんまり投げていないのは…。じゃあDさん。」
（Dさんにやさしくパスをする。）
Dさん：「ありがとう。」
（嬉しそうにボールを受けとり、相手に思い切り投げる。）

【児童③】

Eさん：（外野のFさんと同時に近くにきたボールを取りに行こうとする。）
「いいや。Fさんはあんまり投げていないから…。」
（取りに行くのをやめる）。

(オ) 成果と課題

- 前時までのトレーニング（三つの話し方）を想起させてから、ロールプレイしたことで、児童は「三つの役」を意識して相手に話しかけることができた。
- トレーニングでは、相手の気持ちを考え丁寧に話しかけると、丁寧に返答してもらえていることに気付くことができていた。
- さまざまな場面で、しずかちゃんの話し方をしようと実践していた。そのことは行動にも変化をもたらした。体育科のボールゲームの学習では、今までは自分が投げたくてボールを取り合うことが多く見られたが、トレーニングの後には、相手のことを考え、友達にボールを譲る姿が見られた。また、新しい約束を決め、楽しくゲームができるよう工夫する姿がみられた。
- △ 相手にばかり譲って自分は我慢してしまう面が見られた。自分の気持ちをさわやかに表現できるよう、引き続き指導していく必要性を感じた。

ふりかえり

ねん くみ なまえ

☆ 「いばりやさん」、「おどおどさん」、「さわやかさん」の3人のはなしかたを
やって いちばんきもちがよかったのはだれですか。○をつけましょう。

() いばりやさん

() おどおどさん

() さわやかさん

☆ 「おどおどさん」、「いばりやさん」、「さわやかさん」の3人の あいてやくを
やって いちばんきもちがよかったのはだれですか。○をつけましょう。

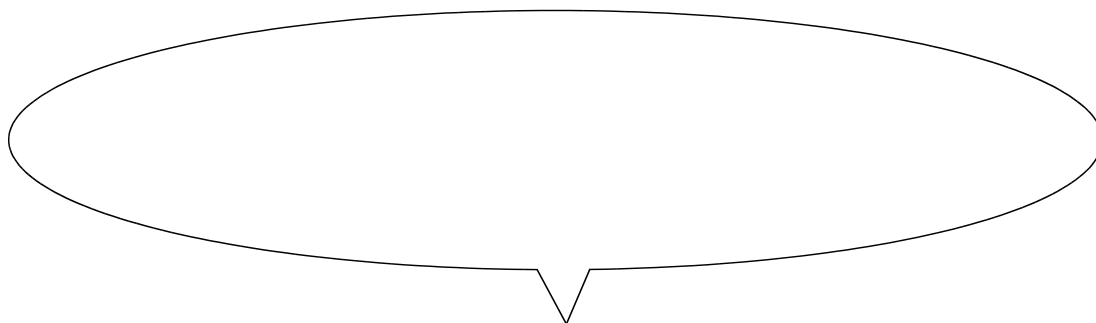
() いばりやさん

() おどおどさん

() さわやかさん

☆ いちばんきもちのよいせりふをかきましょう。

また、よいとおもうかおにいろもぬりましょう。



☆ きょうのじゅぎょうのかんそうをかきましょう。

ウ ショートトレーニング（中学年）

【3学年 友達に静かにしてもらいたいとき】

「相手の気持ちや立場を考え、さわやかに頼む」という行動に焦点を当て、算科科へとつなげた実践

(ア) 学級の実態

明るく屈託のない児童が多い。しかし、場面によっては、必要以上に語気を強めてしまい、いさかいを起こしてしまう児童もいる。また、消極的で自分の気持ちを伝えられない児童もいる。どちらもコミュニケーションスキルが不十分なためと考えられる。学習場面では、特に算数科でグループワークを取り入れることが多いが、話合いで積極的に自分の気づきを伝えられない児童もいる。

(イ) ねらい

相手の気持ちや立場を考え、さわやかに頼む話し方を学習する。

(ウ) 準備物

- ・場面説明文（提示用）
- ・「いばりやさん」、「おどおどさん」、「さわやかさん」の顔絵

(エ) 活動の実際

(15分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 アサーショントレーニングのねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 相手の気持ちや立場を考え、さわやかに頼む話し方を考えよう。 </div>	2分	・「いばりやさん」、「おどおどさん」、「さわやかさん」の顔絵を用いながら教師が、前回の学習「さわやかにたのもう」を振り返り、本時のめあてを伝える。 ・「いばりやさん」、「おどおどさん」、「さわやかさん」の三つの話し方を発表させ、板書しておく。
2 トレーニングを行う。 (1) 場面を知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> あなたは、朝読書の時間に、自分の好きな本を読んで読書をしています。そんなとき隣の席のBさんがあなたに話しかけてきたり、周りの人とおしゃべりをしたりして集中できません。いつもは話の合う仲よしのBさんなのですが、困ってしまいます。あなたならBさんにどんな言葉をかけますか。 </div> (2) 三つの話し方を話し合う。	8分	

<p>(3) 二人組で三つの話し方についてロールプレイを行う。</p>	
<p>3 シェアリングを行う。</p>	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役になりきってロールプレイを行う約束の確認をする。 ・それぞれの話し方によってどのような気持ちになったかシェアリングしてもらうことを確認しておき、意欲につなげる。 ・話し手側、相手側双方の気持ちが発表できるようにする。 ・使う言葉、声の出し方、態度が変わることで伝わり方が変わること気付くことができるようにする。 ・特にアサーティブな話し方のメリットについて考え、そのよさが印象に残るようにする。 ・言葉は、実際の場面で勇気をもって使うことで身に付くことを伝える。

◇児童が考えた三つの話し方の例

<ul style="list-style-type: none"> ● 攻撃的（アグレッシブ） <ul style="list-style-type: none"> ・うるさいよ。 ・しずかにしろよ。 ● 非主張的（ノン・アサーティブ） <ul style="list-style-type: none"> ・（黙っている。） ・ううん。 ● アサーティブ <ul style="list-style-type: none"> ・今は読書の時間だから後で話してくれるとうれしいのだけど。 ・本が読めないからちょっと静かにしてもらえるかなあ。

◇シェアリングの内容

<ul style="list-style-type: none"> ● 攻撃的な話し方の場合（言われてどうだったか。） <ul style="list-style-type: none"> ・かっとした。 ・悪いのは分かっているけど嫌な気持ちになった。 ・反省しようとは思わなかった。
--

<ul style="list-style-type: none"> ● 非主張的（ノン・アサーティブ）な話し方の場合（言ってみてどうだったか。） <ul style="list-style-type: none"> ・悔しかった。

- ・相手が変わらなかった。
- ・我慢している感じがした。

- アサーティブな話し方の場合（言われてどうだったか。）
 - ・反省した。
 - ・悪かったなと思った。
 - ・理由が分かったので納得した。

◇ 算数科での児童の活動の様子

【グループ①】

Aさん：「違うところはどこだと思いますか。」
 Bさん：「丸が棒になっています。」
 Cさん：「縦に目盛りがあります。」
 Aさん：「他にありますか。」
 Dさん：「あとは、ちょっと分かりません。」

違いを示しながら説明
することができていた。

【グループ②】

Eさん：「今までのグラフと棒グラフの同じところはどこですか。」
 Fさん：「一つずつ増えているところが同じです。丸が棒の四角一つになっ
てい
ます。」
 Eさん：「Gさんはどうですか。」
 Gさん：「下から順に増やして書いてあります。」
 Eさん：「私も同じ考えです。」

具体的に理由を説明し
話し合うことができてい
た。

(オ) 成果と課題

- 三つの話し方にはだいぶ習熟している様子が見えてきた。また、その時の気持ちも両者の立場になって考えることができるようになった。相手の気持ちを考えつつも、自分の気持ちも相手に伝えることを重視するようになった。
- アサーションのバリエーションが増えた。ショートプログラムの回数を重ねるごとに表現が多様になり、トレーニングを通して感情についても深く感じることができるようになった。
- トレーニングでは、理由をしっかりと伝えることでアサーティブな話し方になることに気づき、算数科のグループワークの場面では、いつもよりも意識しながら丁寧に理由を説明する姿が見られた。
- △ 発言することや聴くことに対する積極性は向上してきた。しかし、教科指導において話し合い活動の活性化につなげるには、教科の知識、理解、技能などの充実を図っていく必要がある。

エ ロングトレーニング (中学年)

【4学年 丁寧に友達の話聴く】

「丁寧に話を聴く」という行動に焦点を当て、算数科の授業へとつなげた実践

(ア) 学級の実態

自分の考えをはっきりとした口調で発言する児童が多い。それゆえ、時々小さないさかいを起こすことがある。一方、強い発言に流されて、自分の思いを積極的に伝えられない児童もいる。アサーティブな発言は増えてきたが、傾聴の質を向上させる必要性が感じられる。

(イ) ねらい

友達の話丁寧に聴く態度を学習する。

(ウ) 準備物

- ・アサーション説明図（「ジャイアン」、「のび太くん」、「しずかちゃん」の顔絵）
- ・サイコロ大 ・サイコロ小（各ペア用）
- ・話題カード ・振り返り用紙

(エ) 活動の実際

(45分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 前時を振り返り、アサーショントレーニングの方法について確認する。	2分	・「ジャイアン」、「のび太くん」、「しずかちゃん」の顔絵を用いた説明図を使って、前時の復習を行う。
2 本時のめあてと活動内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">友達の話をしていねいに聴いて、その人のよさや個性を知ろう。</div>	5分	・本時は、聴くことを丁寧に学習していくことを伝える。 ・注意点として、話す人をよく見ること、相づちを打つこと、質問をしてみることで話の内容を後で言えるようにしておくことを伝える。
3 サイコロトークを行う。 (1) 1回目を行う。 ・二人組をつくり、向き合う。 ・じゃんけんで最初にサイコロを振る人を決める。 ・サイコロを振って、出た目の話題について話す。また、聴く側は丁寧に聴く。	23分	・サイコロの目と同じ番号の話題について話す。 ・話しづらい話題のときは、パスと言って振り直してよいことを伝え、話しやすい状況をつくれるようにする。 ・二人組の声が重ならないように距離の取り方など場の設定を工夫する。

<p>(2) 相手を替える。</p> <p>(3) 2回目を行う。</p> <p>4 活動を振り返る。</p> <p>(1) 振り返りカードに記入する。</p> <p>(2) 感想を発表する。</p> <p>5 話し方、聴き方のまとめをする。</p>	<p>10分</p> <p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き方や話し方のマナーが守れているか観察し、場合によっては助言する。 ・1回目の取組でよかった点や直したい点を的確に伝え、組み替えを行う。 ・1回目より聴くことに慣れてきていると思われるので、質問も積極的に行うよう助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手の話し方や聴き方でよかった点や気付いたことを書かせながら、学びの定着が図れるように取り扱う。 <ul style="list-style-type: none"> ・聴き方が上手だと話が深まることや非言語コミュニケーション（姿勢、表情、身振り、手振り、うなずきなど）の重要性を伝え今後の話合いに生かしていけるように伝える。
---	----------------------	---

次時において、算数科の「計算のきまり」の学習を以下のような流れで行った。

- 1 課題提示
- 2 パーソナルワーク（自力解決）
- 3 グループワーク（自力解決案をもとにした3，4人での協議）
- 4 クラスワーク（学級全体での解答に関する比較検討・練り上げ）
- 5 まとめ（本時の学習の核心をつかむ。）
- 6 適用問題（よりよい解決方法を適用させるための第二の課題への取組）
- 7 振り返り（本時の取組に対する教師の評価及び自己評価）

◇ サイコロトークンにおける児童の活動例

<p>ペア①</p> <p>Aさん：「一番好きな食べ物は、ハンバーグ。・・・」</p> <p>Bさん：「どこが好きなの。」</p> <p>Aさん：（しばらく考えて。）</p> <p style="padding-left: 40px;">「うん。お肉が好きで、ジューシーだから。」</p> <p>Bさん：（うなずきながら。）「うん。うん。おいしいよね。」</p> <p>Aさん：「うん。」</p>	<p>質問したり，うなずいたりしながら話を聴くことができていた。</p>
--	--------------------------------------

ペア②

Cさん：「ええ？自慢できること？」（困った表情）

Dさん：「ないの？もう一回サイコロ振る？」

Cさん：「ううん。」（考えている様子）

Dさん：「サッカーは？」（助けようとしている様子）

Cさん：「ええ？ううん？」（恥ずかしそうに）

Dさん：「サッカー上手だったよ。」（笑顔で）

Cさん：「じゃあ、サッカー！」（嬉しそうな様子）

相手の表情から気持ちを考えながら、会話を進めていた。

◇ 児童の振り返り用紙の記述から

【話す側として】

- ・言いたいことを言えてスッキリした。
- ・ドキドキした。
- ・相手が（答えを）待っていてくれてうれしかった。
- ・相づちを打ってくれてうれしかった。
- ・相手が自分の言ったことに共感してくれているように思った。
- ・「そうなんだ。」「ふうん。」「へえ。」と言われてとてもいいなあと思った。
「ちがう。」と言われると、いやな感じがするから「そうなんだ。」と言われた方がいい。
- ・強く言わなければ、思っていることを伝えられると思った。

【聴く側として】

- ・理由なども丁寧に言ってくれてとっても気持ちよかった。
- ・優しく話してくれてうれしかった。
- ・相手も大事、自分も大事で幸せになると思った。
- ・友達のことがよく分かった。
- ・相づちを打って聴けた。
- ・相手の人が自分の思っていることを正直に言ってくれたと思った。

【その他の感想】

- ・話し方を変えることで、お互いに気持ちのよい話ができると思った。
- ・言うことは違っても話し合うことが大切だと思った。
- ・いい話し方をよくすれば、相手にもいいと思った。
- ・人の話をよく聴いて、自分の気持ちを相手にも伝わるように話せたらいいと思った。

◇ワークシートのアンケートから（児童数 27人）

- | | | | | |
|-------------------------|-------|-------|------|------|
| 1 相手の話を一生懸命聴くことができましたか。 | ◎ 22人 | ○ 5人 | △ 0人 | × 0人 |
| 2 自分の思っていることを伝えられましたか。 | ◎ 17人 | ○ 10人 | △ 0人 | × 0人 |
| 3 楽しかったですか。 | ◎ 26人 | ○ 1人 | △ 0人 | × 0人 |

◇ 算数科での児童の活動の様子

【グループ①】

- Aさん：「私は、余りは2cmだと思います。まず、 $21.4 \div 4$ を $214 \div 4$ と考えます。次に整数のわり算と同じように計算しました。答えは、53ですが本当は5.3cmです。なぜかというところ始めに21.4だったからです。」
- Bさん：（うなずきながら真剣に話を聴きいていたが、首をかしげながら・・・）
「そうなんだ。ぼくは、余りは0.2cmだと思います。4つとって、残りのテープの長さを測ったら0.2cmくらいだったからです。」
- Cさん：（説明を聴き終わると確信をもった様子で・・・）
「そうか。私はAさんのやり方に似ていますが、余りは、0.2cmだと思います。Bさんのテープが証拠だからです。」
- Aさん：（説明に納得した様子で・・・）
「ああ、そうか。」

【グループ②】

- Dさん：「ぼくは、数直線で考えました。5.3cmずつ4つに区切ると残りは1cmよりずっと少ないです。」
- Eさん：（うなずきながら話を聴いた後）
「ぼくは、余りは何となく0.2cmの方がいいと思います。」
- Fさん：（やさしい声で、静かに話し始め、確かめを行いながら発言を続ける）
「私は、確かめをやれば、元にもどるかどうかで2cmか0.2cmかはっきりすると思いました。かけ算の後に2cmをたすと23.2cmになってしまうので、やっぱり0.2cmが正しいと思います。」
- Dさん：「なるほど。じゃあ0.2cmでいいですか。」
（身体を乗り出しながら説明を聴いていた。）

(オ) 成果と課題

- トレーニングでは、最初のうちは照れくさそうな児童もいたが、相手の傾聴している様子を感じ、自己開示できるようになってきた。相手の表情から気持ちを考えながら、会話をする様子が見られた。また質問も多くなり、関心をもって聴いている様子を感じられた。非言語の大切さを実感することができていた。
- トレーニング後に行われた算数科の学習では、特にグループワークにおいて、受容・共感的な非言語表現を意識して活動している児童が多く見られた。そのことで話合いにも深まりが感じられた。自分の考えの理由をしっかりと述べ合い、グループとしてよりよい意見に一本化する試みもスムーズに行うことができていた。
- △ 一問一答で、終わってしまうペアもあり、できれば深まりのある会話のスキルも身に付けさせたい。また、算数科の学習では、全児童がさらに積極的に意見交換ができるよう、課題を基に具体的に話合いモデルを提示し、スキルアップにつなげたい。



サイコロトキング話題カード

使い方： サイコロを振り、出た目の話題で話しましょう。話題1から話し、次に同じ出目の場合は話題2で話します。さらに同じ出目の場合は話題3で話します。また、どうしても話しづらい話題のときは、サイコロを振り直します。また、話題1も2も3も同じ出目で話してしまったら、もう一度サイコロを振り直します。

出 目	話題 1	話題 2
1	今一番ほしいもの	ちょっと自まんでできること
2	友達に言いたい一言	最近つらかったこと
3	一番好きな食べ物	わたしのしゅ味・特技
4	一番好きなテレビ番組	わたしの宝物
5	一番うれしかった出来事	最近困っていること
6	好きな有名人	生まれ変わるならどうなりたいか

出 目	話題 3
1	まほうが一度だけ使えるとしたら
2	ドラえもんの道具で一番ほしいもの
3	行ってみたいところ
4	しょうらいのゆめ
5	最近ビックリしたこと
6	好きな勉強

「サイコロトーク」ふり返り用紙

*当てはまるところに○をつけよう。

年 組	名前
-----	----

1 相手の話をていねいに聴けましたか。

◎	○	△	×
とても	だいたい	あまり	わからない

2 自分の思っていることを伝えられましたか。

◎	○	△	×
とても	だいたい	あまり	できなかった

3 楽しかったですか。

◎	○	△	×
とても	だいたい	あまり	わからない

4 相手の話し方や聴き方でいいなあ、大切だなあと思うことはどんなことでしたか。
また、その他感じたことを自由に書いてみよう。

オ ショートトレーニング（高学年）

【6学年 上手な聴き方】

「人の話に注意深く耳を傾げることの大切さに気付く」という行動に焦点を当て国語科へとつなげた実践

(ア) 学級の実態

元気な児童が多い。しかし、自分の考えをもち、人とかかわり合いながら伝える力が不足しているしているため、トラブルにつながることが多い。また、教師の指示を待っている児童も多い。

(イ) ねらい

友達の話丁寧を聴く態度を学習する。

(ウ) 準備物

- ・ロールプレシナリオ
- ・顔絵「ジャイアン(いばりやさん)」、「のび太くん(おどおどさん)」、「しずかちゃん(さわやかさん)」

(エ) 活動の実際

(15分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 アサーショントレーニングのねらいの確認する。 「上手な聴き方を学ぼう。」	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・和やかな雰囲気をつくる。 ・話を聴くことが、情報を得る以上に、相手に心理的な報酬を与えることを強調する。
2 ロールプレイを見て、聴き方について考える。 (1) 三つのモデリングを見る。 パターン①攻撃的（アグレッシブ） パターン②非主張的 （ノン・アサーティブ） パターン③アサーティブ (2) 話し役（児童3人）が感想を述べる。 (3) 三つの聴き方の違いについて話し合う。 (4) 聴き方のポイントを確認する。 ○相手に体を向ける ○話している人を見る ○「うん、うん」、「そう」などの相づちを打つ。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・モデリングの話し手3人を選ぶ。 ・教師は「ジャイアン」、「のび太くん」、「しずかちゃん」の顔絵を用いながら聴き役を演じる。 ・三つの聴き方の違いについて、指摘できるようにする。

3 実際にロールプレイをして練習する。	3分	
4 シェアリングを行う。	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方や声の出し方、態度を変えることで気持ちが変わることを確認する。 ・スキルは、一回では身に付かないので、今日学習したことをふだんから意識して行うことが大切であることを伝える。

◇ ロールプレイにおける活動

パターン①攻撃的（アグレッシブ）

Aさん：「この前、レジューランドに行って、なんとかマウンテンっていう乗り物に乗ったんだ。二つともすごく速くて、おもしろかったんだ。」

教師：「はあ？なんとかマウンテンじゃ、何言っているのか分からないよ。」

Aさん：「だから、山を登って、暗い中をすごいスピードで行くやつだよ。かなりおもしろいんだよ。」

教師：「ふうん、おもしろくてよかったな。」（関心がないように冷たく）

パターン②非主張的（ノン・アサーティブ）

Bさん：「この前、レジューランドに行って、なんとかマウンテンっていう乗り物に乗ったんだ。二つともすごく速くて、おもしろかったんだ。」

教師：「・・・」（反応しない。）

Bさん：「山を登り、暗い中をすごいスピードで行くんだよ。かなりおもしろいんだよ。」

教師：「ふうん。」（小さい声で）

パターン③アサーティブ

Cさん：「この前、レジューランドに行って、なんとかマウンテンっていう乗り物に乗ったんだ。二つともすごく速くて、おもしろかったんだ。」

教師：「おもしろかったんだ。それってどんな乗り物だったの？」

Cさん：「山を登って、暗い中をすごいスピードで進んで行くんだよ。かなりおもしろいんだ。」

教師：「そうなんだ。おもしろそうだね。」

◇ 国語科での児童の活動の様子

M子：太一はおとうの敵を討つことしか考えていなかったけど、クエを見た時にこいつを殺したらだめなんだなと考えた。それは、与吉じいさのずっと前から続いている「千びきに一びき」の教えがあったから、その教えを守る

ことでクエを殺さないで済んだのではないか。

T男：ううん。（うなずきながら聴いている。）

M子：教えが「千びきに一びき」じゃなくて「千びきに千びき捕りなさい。」という教えだったら、おとうがクエになったとは考えられないし、クエが海の命だとは考えられないと思う。

Z男，U男，V男：ああ，ううん。（三人で大きくうなずく。）

M子：だから，「千びきに一びき」だからこそ，クエをおとうだと思えたし，クエを海の命だと思えたのではないかと考えました。

T男：ううん。（小さくうなずく。）

M子：そう考えたからこそ，太一は微笑んだんだと思います。

Z男，U男，V男：ううん。（三人でうなずく。）

M子：太一が「千びきに一びき」の教えからクエを殺さなかったから，題名が海の命になったんじゃないかと思います。

Z男，U男，V男：ああ。（三人で大きくうなずく。）

(オ) 成果と課題

- トレーニングでは，話し手の方向に体を向けて，「うん，うん」と相づちを打ちながら話を聴くことが，話しやすい雰囲気をつくることを実感していた。話しかけた相手の聴き方によって，応答の仕方が変わってくることも実感することができた。
- 国語科の話合い活動の場面では，自分の発言に「うん。」と反応して聴いてくれる友達に支えられ，自分の考えをグループの中で伝えることができていた。
- △ スキルを身に付けさせるために，様々な場面で教師が意図的に経験を積ませる必要があると考えた。



◇ モデリングシート

パターン①攻撃的（アグレッシブ）

Aさん：「この前，レジャーランドに行って，なんとかマウンテンっていう乗り物に乗ったんだ。二つともすごく速くておもしろかったんだ。」

教師：「はあ？なんとかマウンテンじゃ，何言っているのか分からないよ。」

Aさん：「だから，山を登って，暗い中をすごいスピードで行くやつだよ。かなりおもしろいんだよ。」

教師：「ふうん，おもしろくてよかったな。」（関心がないように冷たく）

パターン②非主張的（ノン・アサーティブ）

Bさん：「この前，レジャーランドに行って，なんとかマウンテンっていう乗り物に乗ったんだ。二つともすごく速くて，おもしろかったんだ。」

教師：「・・・」（反応しない）

Bさん：「山を登り，暗い中をすごいスピードで行くんだよ。かなりおもしろいんだよ」

教師：「ふうん。」（小さな声で）

パターン③アサーティブ

Cさん：「この前，レジャーランドに行って，なんとかマウンテンっていう乗り物に乗ったんだ。二つともすごく速くて，おもしろかったんだ。」

教師：「おもしろかったんだ。それって，どんな乗り物だったの？」

Cさん：「山を登って，暗い中をすごいスピードで進んで行くんだよ。かなりおもしろいんだ。」

教師：「そうなんだ。おもしろそうだね。」

カ ロングトレーニング（高学年）

【6 学年 友達に同意を求められ、自分の考えを伝える話し方を考えよう】

「友達に同意を求められて自分の考えを伝える」という行動に焦点を当て、特別活動へとつなげた実践

(ア) 学級の実態

元気な児童が多い。しかし、自分の考えをもち、人とかかわり合いながら伝える力が不足しているしているため、トラブルにつながるが見受けられる。また、教師の指示をまっている児童も多い。

(イ) ねらい

友達に同意を求められて、自分の考えを伝える話し方を学習する。

(ウ) 準備物

- ・場面を振り返るための掲示物
- ・顔絵「ジャイアン(いばりやさん)」、「のび太くん(おどおどさん)」、「しずかちゃん(さわやかさん)」
- ・ワークシート
- ・振り返り用紙

(エ) 活動の実際

(45分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 みんなの悩みについて知る。	5分	・アンケート結果を示すことで、問題を共有し、みんなも同じであると安心感を与えるようにする。
2 助け合いやお互い様の心について話し合う。	5分	・ワンフォアオール、オールフォアワンの精神を説明し、一人の悩みはみんなの悩みであることを伝え、悩み事相談会のような雰囲気づくりをする。
3 友達の悩みについて話し合う。	30分	・資料を掲示し、場面の様子を理解ができるようにする。
(1) Kさんの悩みの内容を知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 仲よしのLさんから「Mさんって自己中心的で、嫌だよね。そう思わない？」と同意を求められました。自分もMさんのことを自己中心的で嫌だと思う時もあります。そんな時、Lさんに何と云えばよいでしょう。 </div>		
(2) Kさんの気持ちを考える。		

<p>(3) 自分ならばどう伝えるのか考える。</p> <p>(4) ロールプレイする。</p> <p>(5) 新たな考え方や解決方法（よい伝え方）があるか意見を出し合う。</p> <p>(6) ロールプレイする。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>きるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート②, ③に記入し, 発表する。 ・児童から出た意見をもとにLさん, Kさんになり, ロールプレイを行う。 ・小グループになって話し合う。新たな考えや解決方法をワークシート④に記入する。 ・自分の気持ちを偽ることなく, 相手の気持ちも尊重して表現しているかどうかを考えるようにする。 <p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに感想を書く。
--	--

◇ ロールプレイにおける児童の活動例

ペア①

Aさん：「Mさんって、自己中心的で、嫌だよね。そう思わない？」

Bさん：「ううん。」

Aさん：「ねえ、そう思うでしょう？」

Bさん：「そう思う時もあるけど、いつもじゃないよ。」

ペア②

Cさん：「Mさんって、自己中心的で、嫌だよね。そう思わない？」

Dさん：「うん、ぼくもそう思う時ある。先生に相談してみない。」

Cさん：「うん。そうしよう。」

ペア③

Eさん：「Mさんって、自己中心的で、嫌だよね。そう思わない？」

Fさん：「Eさんもそう思っていたんだ。私もそう思う時あるよ。」

Eさん：「Fさんもそう思うんだ。自己中って本当に嫌だよね。」

Fさん：「でも、この間先生がクラスっているろんな人がいるからいいんだって言っていたから、まあ、しょうがないんじゃない。」

◇ 学級活動での児童の活動の様子

教師：「今から修学旅行のバスの座席を決めます。なるべくグループで近くに座ってください。では、学級委員と班長お願いします。」

< 1班の様子 >

R男：「俺、となり誰でもいいけど。でも、K男さんはちょっと嫌なんだな。」

N子：「K男さんはちょっと嫌だって思っているんだ。それは、どうしてなの？」

R男：「自己中だなんて感じることもあるんだよ。」

M男：「そっか…。だったらぼくが隣になるよ。K男は頭いいし、いろんなクイズ出してくれて楽しいんだ。」

N子：「そうなんだ。」（笑顔で）

R男：「へえ。そうなんだ。」（驚いたように・・・）

(オ) 成果と課題

- 今回のトレーニングの場面も、学級の中でよく見られる様子であった。アサーティブな表現を全体で考えることで、アサーティブな表現の幅を広げることができていた。
- 学級活動は、トレーニングと同じような場面が出てきたが、相手の気持ちを受け止め、自分の考えを素直に伝えることができたことで、友達のよさについて気付くことができ、話を深めることができていた。自分も相手も大切にしているアサーティブな表現が自然に交わされていた。
- アサーショントレーニングを繰り返していくうちに、児童自らがアサーティブな表現を身に付け、学級の様々な場面で問題解決のためにアサーティブな表現を使っていることが分かった。
- △ スキルを定着させるために、様々な場面で教師が意図的に経験を積ませる必要があると考えた。



あなたなら、どうしますか

名前 _____

Kさんは次のような悩みをもっています。

仲よしのLさんから「Mさんって、自己中心的で、嫌だよね。そう思わない？」と同意を求められました。自分でもMさんのことを「自己中心的だな」と思う時もあります。そんな時Lさんに何と言えばよいでしょう。

① Lさんにこう言われて、Kさんはどう感じたと思いますか。

② あなたがKさんなら、Lさんにどのように伝えますか？

③ Lさんに言うことで、気を付けたことは何ですか。

④ グループで話し合った解決方法（よい伝え方）は何ですか。

ふりかえりシート

名前 _____

◇ 学習して思ったこと，考えたこと，気がついたことなどを書きましょう。

◇ 今日の学習は楽しかったですか。

◇ 今日の内容はよくわかりましたか。

() 楽しかった

() わかった

() どちらかといえば楽しかった

() どちらかといえばわかった

() どちらかといえばつまらなかった

() どちらかといえばわからなかった

() つまらなかった

() わからなかった

キ まとめ

望ましい人間関係の構築と学びの質の高まりについて焦点を当て、アンケートを抽出し考察を行った。

平成24年7月と平成25年3月の調査結果を比較すると、どの項目も「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」の割合が高くなっている。これは、アサーショントレーニングに取り組んだことで、自分の思っていることを表現してもよいのだという雰囲気が学級や学校全体に広がったためと考えられる。低・中学年項目3、高学年項目2のアンケート結果からは、学校生活場面でのアサーショントレーニングを繰り返し行ったことで、伝え方を学び、自分の気持ちや考え、欲求を大事にしてよいことを知り、意識が変化したと考えられる。

低・中・高学年項目7においては、「全くあてはまらない」の割合が減少している。傍観者だった児童が、アサーショントレーニングを行ったことで能動的な働きかけができるようになったと考察できる。また、勉強で分からないことがあった時には助けを求め話し方を知り、行動に移すことができるようになったことが、低・中学年項目9のアンケート結果からもうかがうことができる。このことは、学びの質を高めることにもつながっていた。低・中学年項目5、高学年項目12からは、相手の気持ちを考えることができるようになり、自分から人とかかわっていこうとする気持ちが育っていることがうかがえる。意識が変わり、行動へと変化していった児童の様子がうかがえる。

平成25年4月の調査結果には、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」の割合が減少しているものもある。これは、クラス替えによる環境の変化が影響していると考えられる。

本研究を通して、学級の雰囲気が変化していくことを身をもって感じた。休み時間等に小さなトラブルが起こった時、「さっき何て言えばよかったのか、考えよう。」と、対応する児童の様子が見られるようになった。児童は、自分の言動に攻撃的、非主張的、アサーティブといった表現の種類があることを知り、表現方法を試みることができるようになった。アサーティブな話し方を身に付けたことで、人間関係上のトラブルを未然に防ぎばかりでなく、自分たちで問題を解決する方法も身に付けていくことができていた。小学校の発達段階において、特にショートトレーニングは、手軽に取り組むことができ、場面が具体的であったため、すぐに実践へとつなげることができていた。朝の会や帰りの会などに、繰り返し行う時間を確保できたことで、より効果的にアサーティブな表現を知ることができた。

さらに、トレーニングを通して、児童は、話をよく聴くことができるようになった。このことは、他者の意見を尊重することができるようになり、授業において大きな変化をもたらした。特にグループ学習において、相手の意見をよく聴き、考え、自分の意見を積極的に伝え、考えをまとめることができていた。一人一人の学びの質を高めることにつながっていた。

研究を通して、児童は、アサーティブな話し方を学んだことで、友達との関係性がよくなり相手のよさに気付くことができていった。そして、何よりも教師のアサーティブな態度やアサーティブをよしとする意識が、児童の意識をも変え、行動の変化へとつなげることができていったのではないかと感じている。

(2) 中学校（人権意識の高揚）

ア ショートトレーニング

【相手（話し手）にとって気持ちのよい聴き方】

「上手な話の聴き方」に焦点を当てた実践

(ア) 学級の実態

明るく活発な生徒が多い。しかし、自分の気持ちを表現するのが苦手で、言葉が足りず、ささいなことで言い争いやトラブルになることもある。一方、強い発言に流されて、自分の思いを積極的に伝えられず、不満をためて学校生活に不適應を起こす生徒も見られる。アサーティブな発言は増えてきたので、傾聴することの大切さに目を向けさせたい。

(イ) ねらい

上手な話の聴き方について考える。

(ウ) 準備物

- ・ワークシート

(エ) 活動の実際

(15分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 本時の活動内容を知る。 上手な話の聴き方について考よう。	1分	・これまでの取組について振り返り、本時の意欲付けをする。
2 教師のモデリングから、感じたことを発表する。 A：ふんぞり返る、腕や足を組む、相手を見ない、いいかげんな相づち B：前かがみ、うなずく、繰り返す	3分	・教師が聴き役となって、生徒がA、Bの聴き方や、態度について確認し、関心を高める。
3 トレーニングを行う。 (1) 場面を知る。 A・Bの態度で、お互いに話を聴てみよう。 (2) 二人組で役を交代しながらロールプレイを行う。	6分	・生徒が状況を理解しやすくなるように、話すテーマを伝える。 ・役になりきってロールプレイを行う約束の確認をする。 ・活動できない生徒にはグループの中に入って助言する。
4 シェアリングを行う。	3分	・話し方や声の出し方、態度を変えることで気持ちが変わることを確認する。

5 本時の活動を振り返る。	2分	・スキルは、1回では身に付かないので、今日の活動をふだんから意識して行うことが大切であることを伝える。
---------------	----	---

◇ ロールプレイにおける生徒の活動例

ペア①（Aの態度で）

Aさん：「好きな食べ物はなんですか？」

Bさん：「とんかつ。」

Aさん：「・・・。」

Bさん：「・・・。」

ペア①（Bの態度で）

Aさん：「好きな食べ物は何ですか？」

Bさん：「とんかつ。」

Aさん：「へえ。（にっこり笑う）どこが好きなの。」

Bさん：（しばらく考えて）「肉が好きで、揚げ物が好きだから。」

Aさん：（うなずきながら）「そうなんだ。」

◇ 生徒の振り返りから

【話す側として】

Aの聴き方の人に話してみても

- ・自分の話に興味がないのかなと不安を感じる。
- ・話をしないで！という雰囲気が出ていて、話していても楽しくなかった。
- ・聴いているのかなと思って、あまり話をしたくなかった。
- ・短気の人だとけんかになってしまうかも。（私だとそうなる。）

Bの聴き方の人に話してみても

- ・「そうなんだ。」、「ふうん。」、「へえ。」などと言われて、とてもいいなあと思った。
- ・興味をもってくれているんだなと思って、話していて楽しかったし、もっと話をしていたいと思った。
- ・繰り返してくれると、きちんと聴いてくれているんだなと思って話しやすかった。自分もこの聴き方を意識したい。
- ・話が次々に進んでいった。
- ・安心できて、どんどん話題がふくらんでいった。

(オ) 成果と課題

- 照れくさそうな生徒も見られたが、相手の傾聴している様子を感じて、自己開示できるようになってきた。また、話をするのが苦手な生徒に対しては、相手から話を聴こうとする姿が見られた。
- 話を聴く態度によって、相手が気持ちよく話せることが分かり、今後に生かそうとする生徒が見られた。
- 相手の身になって（思いやりをもって）考えることができた。
- △ あらかじめ話す内容をメモさせて授業を行ったが、ロールプレイでメモを注視しすぎる傾向が強かった。「なるべく見ないで」という教師側の働きかけがあるとよかった。



ワークシート

「上手な話の聴き方」

() 年 () 組 名前 ()

ロールプレイの例

聴き手：「好きな芸能人はだれ？」 → 話し手：「〇〇。」

(聴き手はA, Bの態度で聴いてみよう)

Aの聴き方の人に話をしてみて印象・感想（ロールプレイを終えて）

Bの聴き方の人に話をしてみて印象・感想（ロールプレイを終えて）

今日の授業の感想や気付いたこと

イ ショートトレーニング

【メールなどで上手に自分の意見を伝えるとき】

インターネットを介したコミュニケーションを行っている生徒のメール等でのやりとりを想定した実践

(ア) 学級の実態

素直で明るく、協調性のある生徒が多い。教え合いや話合いなどにも積極的に男女分け隔てなく付き合っている。しかし、最近では、学年問わずにメールやブログなどが発端となるトラブルが増えている。本学級でも約4割の生徒が自分の携帯電話やスマートフォンを所持しており、頻繁にメールなどを使用している。直接顔を合わせずに行われるコミュニケーションでは、どのようなトラブルが起り得るのかをあまり考えずに使用している実態がある。

(イ) ねらい

メールなどでの上手なコミュニケーションの取り方を学習する。

(ウ) 準備物

- ・携帯電話，スマートフォンの使用状況についてのアンケート結果
- ・ワークシート

(エ) 活動の実際

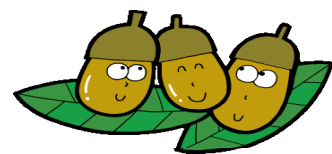
(20分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 インターネットを通してのメールなどの使用状況を知る。	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・学級のメールなどの使用実態を知らせることにより，生徒の関心を高める。 ・学校で実際にあったトラブルを提示し，身近なところで誰にでも起り得ることを説明する。 ・①と②に対して，断るときに自分も相手も嫌な気持ちにならないような返信を考えて書くように声をかける。 ・実際のメールのように，絵文字や顔文字なども使ってよいことを伝える。 ・初めにワークシートにまとめた上で，挙手または指名によって意見を述べさせたい。
2 アサーショントレーニングのねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> メールなどでの上手なコミュニケーションの取り方を学ぶ。 </div>	4分	
3 トレーニングを行う。 (1) 場面を知る。 (2) 返信メールの内容を考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 夜，親友から誘いのメールがきたけど，どうやって断る？ </div> ①「今日遊ばない？部活ないし親いないからウチ来なよ（^^）/」 ②「マジで〇〇むかつくわ～～～友達だからって言っているいいことと悪いことがあるじゃんねぐへ〜> そう思わない？明日からちょっと距離おこうよ。あいつと口ききたくないし！」	6分	

4 工夫したところと難しかったところについてシェアリングを行う。	5分	
5 今日の感想を書く。	3分	・活動を行って試みての率直な感想を書くように声をかける。

(オ) 成果と課題

- 授業の初めに、学級で行った携帯電話やスマートフォンに関するアンケート結果を提示したこと、また、学校で実際に起こったトラブルを基にワークシートを作成して使用したことで、現実味のあるトレーニングができた。
- メールでのやりとりを想定したワークシートを使ったことで、興味をもって活動する生徒が多かった。
- 実際に顔を合わせてするコミュニケーションと、メールなど相手の表情や感情が見えない場合のコミュニケーションを比較したことで、その時々合う言葉遣いや表現の仕方を工夫しようと試行錯誤する態度が見られた。
- △ 携帯電話やスマートフォンを持っていなかったり、メールを使用したことがなかったりする生徒から、「持ってないからあまり考えたことがないし、想像がつかない。」という意見があった。このような生徒への対応として、文字言語の上手なコミュニケーションとして、手紙などを例に挙げ意識付けしていく必要があると感じた。



こんなメールがきたけど、どうする～？(その1)

年 組 氏名 _____

親友から

今日遊ばない？
部活ないし
親いないからウチ来なよ（^^）

あなたの返信

こんなメールがきたけど、どうする～？(その2)

親友から

マジで●●むかつくわ～
友だちだからって言っていいことと悪いことがあるじゃんね そう思わない？
明日からちょっと距離おこうよ □ききたくないし

あなたの返信

☆工夫したところはどこですか？

☆難しかったところはどこですか？

☆今日の感想

ウ ロングトレーニング

【自分で自分をほめよう】

自分のよいところを見つけ、相手の話を聴くことを通して自己理解を図り自尊感情を育てる実践

(ア) 学級の実態

授業以外の様々な活動は、元気で活発に取り組む生徒が多い。しかし、自分の意見を積極的に述べたり、自発的に行動したりすることを苦手している生徒が多い。特に、クラスの友達の前で自分の意見を伝える場面になると消極的になり、発言が少なくなってしまう。自分の考えをもっているのに、それを伝えられないことがある。

(イ) ねらい

自分で自分をほめること、大切に聴くという二つの体験を通して、生徒の自己理解を図り、自尊感情を育てることを目的に行う。

(ウ) 準備物

- ・ワークシート
- ・振り返りシート

(エ) 活動の実際

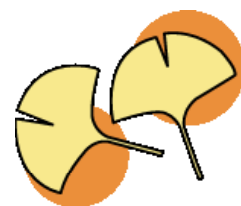
(50分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
<p>1 アサーショントレーニングのねらいの確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分のよいところを見つけ、自分で自分をほめよう。 相手の話を聴こう。</p> </div>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を大切にしていきたいという気持ちを育てたり、確かめたりするためにも、自分で自分のよいところ、すばらしいところをしっかりと見つめさせる。 ・相手を大切に思って聴くことを心がけさせる。
<p>2 トレーニングを行う。</p> <p>(1) ワークシートに自分のよいところすばらしいところを記入する。</p> <p>(2) 自分のよいところ、すばらしいところを多くの人に伝える。</p> <p>① 三人組になる。</p> <p>② 相手に、自分のよいところ、すばらしいところを話す。</p> <p>③ 話し終わったら、聴いていた人は</p>	35分	<ul style="list-style-type: none"> ・人より優れている必要はなく、よいと思ったことをできるだけ多く書くよう助言する。 ・ワークシートに書いたことをもとに、友達に向かって話すよう助言する。 ・話す内容は、毎回同じでことでも違ってよい。全てを話すのではなく、指定してもよい。 ・固定したメンバーにならないように、様々な友達と組をつくれるようにする。

<p>簡単に感想を話す。</p> <p>④ 交代する。</p> <p>⑤ メンバーを替え、繰り返し行う。</p> <p>(3) 感想を発表する。</p> <p>3 シェアリングを行う。</p>	<p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すとき、聴くときともに自分を大切にする、相手を大切にすることを忘れずに行うように助言する。 ・友達に向かって自分のよいところを話すのはどんな気持ちでしたか自分で自分をほめることはどんな気分だったか感想を聴く。 ・友達からほめてもらうのもいい気持ちだったけど、自分で自分をほめてあげるのも悪い気がしないことを確認する。 ・友達に自分のよいところをきちんと聴いてもらえると、それもとても気持ちいい感じがしたのではないかを確認する。 ・かけがえのない大切な自分という気持ちを育てていけるように、これから少しずつ自分で自分を認めほめていけるよう促す。
--	--

(オ) 成果と課題

- 前時までのトレーニング（友達のよいところを見つけ、ほめる）では、他人にほめてもらうとうれしいという感想をもったが、自分のよいところを探すことで自分を知ることができた。
- 相手の話を聴くとき、しっかり聴こう、相手を思って聴こうという意識ができていた。
- 自分の思ったことを、適切な表現で伝えてもいいんだなという意識ができた。
- △ 定期的に行うことで意識化がされ、より一層効果があると感じた。



()年()組 名前()

私はがんばってます！

～一年間の活動を振り返り、具体的に記入しよう～

1 こんなことをがんばりました。

.....
.....

2 こんなことが成長しました。

.....
.....

3 自分にはこんなよいところがあります。

.....
.....

4 こんなことで友達に感謝されました。

.....
.....

5 こんな行事が楽しかったです。

.....
.....

6 これからはこんなことをがんばりたいです。

.....
.....
.....

7 今日の学習で気付いたことや感想を書きましょう。

.....
.....
.....
.....

エ まとめ

アサーショントレーニングを実践することは、生徒が互いの「ちがひ」を共有しそれぞれの存在を認め合い、自らの考えを伝え、相互理解を深め合いつつ合意形成・課題解決する能力を育み、コミュニケーション能力の育成につながったと考えられる。アサーショントレーニングを繰り返し行うことにより、生徒は自分とは違った気持ちや考え、欲求が他者にはあることが分かり、少しずつではあるが、生徒に変容が見られるようになってきた。さらに、アサーティブな話し方を知ることに加え、アサーティブな表現のよさや大切さに気付く生徒が多く見られた。自分の言葉遣いや、人との接し方のよくない習慣などに気付き、自分を見直す姿が見られるなど、思考の変化が見られた。また、相手の立場に立って行動する姿が見られたり、自分の考えや思いを相手に素直に伝えられたりするなど行動の変化も見られるようになった。

ショートトレーニングでは、各担任が短時間で手軽に取り組むことができ、期間を空けずに繰り返し実施できたことで、変容した生徒の意識や行動を持続させていくことができた。中学校部会では、次のような方法が有効だったと考える。例として、まず「三つの話し方」をロングトレーニングで行う。次に、その「三つの話し方」を生活場面ごとに活用させるショートトレーニング（「帰りの会でみんなに静かにしてほしいときの日直としての話し方」や「友達の誘いに対してのさわやかな断り方」、「メールや手紙での、誘いへの断り方」など）を行う。このように、ロングトレーニングで身に付けたものを生活場面の中でどのように使うかをショートトレーニングすることで、よりアサーティブな表現の実践力を向上させることができたと考える。これらのことから、基本的なスキルをロングトレーニングで行い、様々な場面を想定したショートトレーニングを組み合わせることで相乗効果があると考えられる。

人権意識の高揚の視点からアンケートを分析し、次のことが分かった。項目4、6の結果からは、これまでは断りづらかったが、自分が嫌だったら断ってもよいということが分かったという生徒が増加している。また、項目7の結果からは、友達の間違いについて、相手の気持ちを考えて、間違いを正す言動ができる生徒が増えている。さらに項目16、18、20の結果からは、授業中、友達の意見をしっかり聴こうとする生徒や、発表時に相手に分かりやすく、丁寧に伝えようとする生徒が増えていることが分かる。これらのことから、要求を一方的に主張するのではなく、他者の立場も共感的に理解することの大切さに気付くなど、自分の人権を守り、他の人の人権を守ろうとする意識が高まってきたと考える。

新年度になり、母集団が変わったため4月の数値が下がっているが、平成24年度の1、2年生と平成25年度の2、3年生（アサーションを経験している生徒）の結果を見ると数値は上昇している。このことから、計画的・継続的にアサーショントレーニングに取り組むことで意識化が図られ、集団が変わってもこれらの意識は継続し、育ったコミュニケーション能力は、新しい集団の中でも望ましい人間関係を築くために生かされると考えられる。

(3) 高等学校（自尊感情の高揚）

ア ショートトレーニング

【友達をよくない行動に対し、注意を伝え改善を促す】

「友達をよくない行動に対して注意を伝え改善を促す」という行動に焦点を当てた実践

(ア) 生徒の実態

友達に嫌われたくないために、友達をよくない行動を目撃しても、忠告をできない生徒が多い。そのため、自分の感情を押し殺してしまい、互いの成長のチャンスを生かせない場面を見ることが多い。

(イ) ねらい

自分の気持ちを上手に言える技法を学習する。

(ウ) 準備物

- ・ワークシート「さわやかに自己表現できるアサーティブな人になろう」

(エ) 活動の実際

(20分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 アサーショントレーニングのねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">友達をよくない行動を見たときに、自分の気持ちをさわやかに伝え、アドバイスができる人になろう。</div>	2分	・友達をよくない行動に対してアドバイスできることは友達のためにもとても重要だということを伝える。 ・気まづくなってしまうなどと心配し自分の気持ちが伝えられない関係は、健全で対等な関係であるとは言えないことを理解させる。 ・実際の清掃のときにそういった経験があるか、また、自分がやらなかったことはないか、思い出し真剣に考えられるようにする。 ・いつも自分がどのような対応をしているのかを振り返らせる。 ・三つのモデリングをそれぞれ考えることで、話し手側も相手側も気持ちを考えられるようにする。
2 トレーニングを行う。 (1) 場面を知る。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;">清掃のときに、いるだけでやらない友達がいます。そのとき、どのような言葉をかけますか？ (教師読み用)</div> (2) 三つのモデリングを考える。 ○攻撃的（アグレッシブ） ○非主張的（ノン・アサーティブ） ○アサーティブ	15分	

<p>(3) 二人組で互いにロールプレイを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役になりきってロールプレイを行う約束の確認をする。 ・活動できない生徒にはグループの中に入って助言する。 ・聴き手は、話し手が話すのをきちんと聴くように心がけ、感じたことを話し合わせる。 ・理解を深められるように、ロールプレイで体験したことを思い出させながら解説する。
<p>(4) アドバイスを上手に伝えるためにはどうしたらよいか、意見をまとめる。</p>	
<p>3 シェアリングを行う。</p>	<p>3分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブに話すポイントを踏まえ、どのような話し方ならば相手に上手に気持ちを伝えられるか考えさせる。 ・アサーティブに伝えることで伝える側と受け取る側の感情がどう変化するかを確認させ、話し合わせる。 ・話し方や声の出し方、態度を変えることで気持ちが変わることを確認する。 ・スキルは、一回では身に付かないので、今日学習したことをふだんから意識して行うことが大切であることを伝える。 ・ワークシートの振り返りを行わせる。

◇ ロールプレイにおける生徒の活動例

攻撃的（アグレッシブ）ペア①

A君：「何でやらないで、遊んでいるんだよ。」

B君：「関係ないだろ！」

A君：「何でやらないんだ。」

B君：「うるさいな。」

非主張的（ノン・アサーティブ）ペア②

A君：「あの・・・。」

B君：「え？何？」

A君：「掃除は・・・。」

B君：「何か用なの？」

アサーティブペア③

A君：「Bさん、一緒に掃除やろうよ。」

B君：「ううん。」

A君：「一緒にやれば終わるのも早いし、助かるよ。」

B君：「そうだよね。よし、やろうか。」

(オ) 成果と課題

- 自分の気持ちをさわやかに相手に伝えるためのポイントについて解説したことで、生徒は「アサーティブな伝え方」を意識しながら、相手に話しかけることができた。また、アサーティブに伝えることで、自分も相手も気持ちよくなれることを確認できていた。
- 生徒は、ロールプレイを通じて、感情の伝え方について理解し、自分の感情を我慢せずに表現してもよいことを意識できていた。
- △ 授業の終わりに、ふだんから意識して行うことが大切であることを伝えたが、「アサーティブな伝え方」を言い慣れていない生徒が多く、「難しい」と抵抗を感じている生徒も少なくなかった。

実際に、落ち着いて話をするには、何度も繰り返しトレーニングをしていくことが大切であると感じた。活用できる機会を継続的に設定するなど、定着させる工夫が必要である。



さわやかに自己表現できるアサーティブな人になろう♪

☆ 清掃のときに、いるだけでやらない友達があります。そんなときどのような言葉をかけますか？

予想される相手の態度

例) 攻撃的な表現	
例) 非主張的表現	
例) アサーティブ (さわやかな) 表現	

友達がきちんと清掃してくれるようになるには、
どんな話し方をしたらいいかな

「アサーティブ」な人は、自分の気持ちを相手に伝えたときに、賛成されることも、反対されることも、半分半分の確率だということが分かっています。言いたいことや自分の気持ちを素直に相手に伝えることができると同時に、相手の言いたいことや気持ちをよく聴いて理解しようとしませんが、必ずしも全面的に賛成するとは限りません。

「状況の説明」、「気持ちのアピール」、「具体的な提案」がセットになるとより気持ちが伝わります。

年 組 氏名

イ ロングトレーニング

【アグレッシブな対応にアサーティブに返そう】

「攻撃的な（アグレッシブな）対応をされたとき、それに対して上手にアサーティブに返す」という行動に焦点を当てた実践

(ア) 生徒の実態

怒りの感情をすぐに表面に出してしまう生徒が多い。そのため、感情的になってしまうことが原因で、生徒間のトラブルが多く発生している。中には、怒りの感情に任せて攻撃的なかわり方をしたことから、生徒指導上の問題に発展するケースもある。また、逆に、感情を抑え込んでしまい、ストレスを抱え、自分の殻に閉じこもってしまう生徒もいる。

(イ) ねらい

相手からアグレッシブな対応をされ、嫌な感情をもったとき、それをため込まず感情的にならずに上手に相手に伝える方法を身に付ける。

自分の気持ちをコントロールし、自分も相手も大切にする自己表現を活用して、よりよい人間関係づくりに役立てる。

(ウ) 準備物

- ・ワークシート
- ・振り返りカード

(エ) 活動の実際

(50分)

トレーニング活動・内容	時間	教師の働きかけ及び配慮事項
1 アサーショントレーニングのねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">アグレッシブな対応をされたとき、それに対して上手にアサーティブに返してみよう。</div>	5分	・怒りの感情は、人間が本来持っている自然な感情であることを理解させる。
2 トレーニングを行う。 (1) 場面を知る。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;">数学の授業中、A君が計算ミスをしてしまいました。それに対しB君が「こんな計算もできないの？だからいつも赤点しかとれないんだよ！」と言ったので、A君は頭にきてしまいました。あなたならB君に何と言いますか？ (教師読み用)</div> (2) アグレッシブな対応をされたときの自分の対応をワークシートに記入	35分	・自分が今までにあった、アグレッシブな（攻撃的な）対応をされたときのことを思い出させてもよい。 ・アグレッシブな対応をされたとき、今までの自分はどのように

<p>する。</p> <p>(3) 二人組で互いにロールプレイを行う。</p> <p>(4) アグレッシブな対応をされたとき、そのときの感情を相手に上手に伝えるためにはどうしたらよいか説明を聞く。</p> <p>(5) アサーティブな伝え方を考え、ワークシートに記入する。</p> <p>(6) 二人組で再度ロールプレイを行う。</p>	
<p>3 シェアリングを行う。</p>	<p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動していたかを振り返らせる ・ 役になりきってロールプレイを行う約束の確認をする。 ・ 活動できない生徒にはグループの中に入って助言する。 ・ 伝えるA君やそれを受けたB君がどのように感じたかを話し合わせ、振り返りカードの1と2に記入させる。 ・ 自分は今「嫌な気持ちである」という感情を相手に上手に伝えるためのポイントについて解説する。 ・ 理解を深められるように、ロールプレイで体験したことを思い出させながら解説する。 ・ ポイントを踏まえ、どのような話し方ならば相手に上手に気持ちを伝えられるか考えさせる。 ・ アサーティブに伝えるには、決して攻撃的ではなく、あくまでも「相手のことを大切にしながら、自分の気持ちを分かりやすく伝え、相手にどうしてほしいかをお願いする姿勢」で伝えることが重要であることを理解させる。 ・ アサーティブに伝えることで、伝える側と受け取る側の感情がどう変化したかを話し合わせ、振り返りカードの3と4に記入させる。 ・ 話し方や声の出し方、態度を変えることで気持ちが変わることを確認させる。 ・ 感情を上手に伝えることは難しい表現であり、繰り返し練習することが大切であることを伝える。

◇ ロールプレイにおける生徒の活動例

例1

[今までの自分]

B君：「こんな計算もできないの？だからいつも赤点しか取れないんだよ！」

A君：「赤点？お前なあ！」

[アサーティブな表現]

B君：「こんな計算もできないの？だからいつも赤点しか取れないんだよ！」

A君：「僕はミスをしたけれど、そんなことを言われたら、嫌な気持ちになって残念だよ。」

例2

[今までの自分]

B君：「こんな計算もできないの？だからいつも赤点しか取れないんだよ！」

A君：「はい？できる人には分からないよね。できない人の気持ちは！」

[アサーティブな表現]

B君：「こんな計算もできないの？だからいつも赤点しか取れないんだよ！」

A君：「そんな話し方されるとがっかりだよ。そこまで言われたら傷つくな。自分が言われたら嫌な気持ちになるだろう。」

例3

[今までの自分]

B君：「こんな計算もできないの？だからいつも赤点しか取れないんだよ！」

A君：「うるさいな！そんなこと言うなよ！」

[アサーティブな表現]

B君：「こんな計算もできないの？だからいつも赤点しか取れないんだよ！」

A君：「僕だってこれでも一生懸命やっていたのに、そんなふうに言われたらま
いっちゃうな。どうしたら間違えないか、教えてくれる？」

(オ) 成果と課題

- 自分は今「嫌な気持ちである」という感情を相手に上手に伝えるためのポイントについて解説したことで、生徒は「アサーティブな伝え方」を意識しながら、相手に話しかけることができた。また、アサーティブに伝えることで、自分の気持ちが相手に伝えられてスッキリした感覚や、受け取る側も相手の気持ちがわかり反省する気持ちになれたことが体験できた。
- ロールプレイを通じて、コミュニケーションを取る際に、お互い言葉遣いには十分気を付けなければならないことを認識できた。自分の表現次第で、相手を不

- 快にさせるだけでなく、自分も不快な気持ちになってしまうことが体験できた。
- △ 今回のトレーニングでは、場面を設定して実施したが、生徒自身に自分が体験した状況を設定させることで、より身近なこととして捉え、実践的なトレーニングが行えると感じた。
- △ 感情を表現することはとても難しいことであると感じた。特に、感情的になりそうなときに、どう気持ちを落ち着かせるかが重要になってくる。だからこそ、感情の表現方法を理解させ、アサーショントレーニングのショートトレーニングを定期的実践することが必要であると感じた。



「感情ワークシート」

場面

数学の授業中、A君が計算ミスをしてしまいました。それに対しB君が「こんな計算もできないの？だからいつも赤点しか取れないんだよ！」と言ったので、A君は頭にきてしまいました。あなたならB君に何と言いますか？

シナリオ

B君：「こんな計算もできないの？だからいつも赤点しかとれないんだよ！」

A君：

B君：

A君：

1回目 A君役のあなたは、どのようにB君に言いますか？

2回目 A君役のあなたは、どのようにB君に言いますか？

○ 「嫌な気持ちである」ことを上手に相手に伝えるポイント

- 1 自分が「嫌な気持ちである」ことをしっかりと受け止める
- 2 相手に「嫌な気持ちである」ことを丁寧に伝える
- 3 相手に「お願いする」つもりで伝える
- 4 話を聞いてくれたらお礼を言う

年	組	番	氏名
---	---	---	----

振り返りカード

● 1回目のロールプレイをやってみて

1 A君を演じたとき、気持ちを伝えた結果、どのような気持ちになりましたか？

2 B君を演じたとき、A君の反応からどのような気持ちになりましたか？

● 2回目のロールプレイをやってみて

3 A君を演じたとき、気持ちを伝えた結果、どのような気持ちになりましたか？

4 B君を演じたとき、A君の反応からどのような気持ちになりましたか？

● まとめの後で

5 今日の授業で気付いたことや感想を書きましょう。

年	組	番	氏名
---	---	---	----

ウ まとめ

アサーショントレーニングの実践が、生徒たちにとって、自分の意見や感情を相手に伝える方法を学ぶ機会となった。そして、ロールプレイを通して、体験的に「自分も相手も大切にする」というアサーションについて理解を深めることができた。具体的には、ワークシートを使った「いるだけで清掃をやらない友達への言葉かけ」の活動実施後、実際に清掃をやらない生徒がいなくなった。このことはこのアサーションの考えが、自己中心的な行動から、自分の行動を振り返り改善するきっかけにもなったと考察する。

また、進学・就職時の課題にもなる「自己PR文を作成しよう」というテーマでは、自分の長所を級友に書いてもらうという活動が無作為に作ったグループで行った。初めは級友の長所を書くことができなかつた生徒たちが、順調に進めているグループをモデルにしながら取り組み、最終的に全生徒がそれぞれの長所を書くことができた。そして自分の感情や意見を肯定的に捉え、それを相手に伝えてもよいことを意識できるようになったと考察する。一方、アサーティブな表現については、言い慣れないことでもあり「やらされている」、「違和感がある」などの感想をもつ生徒もいた。ふだんからアサーティブな表現を意識した発言ができるような環境づくりが課題である。そのためには、まず教師がアサーティブな姿勢をモデルとして示していくことが重要であり、教師がアサーションを積極的に実践していく姿が生徒へのメッセージになると考える。

また、実践とともに定期的にあサーションを意識したアンケートを取っていく中で、クラスの雰囲気も穏やかになっていった。これは、アンケートに答えることで、自分の姿を定期的に振り返り、結果としてアサーティブな姿をイメージする機会をもつことにもなったためと考察する。

一方、ショートトレーニングの実践前後のアンケートでは、「友達に自分の考えを打ち明けることができる」生徒の割合が、60%から90%までに伸びた。この伸び率は、注目すべきことである。また、「自分の感情を適切に表現することができる」という質問では事前事後での変化があまり見られなかつた。このことから、継続的にトレーニングしていかないと効果が出にくいのではないかと考察する。

アサーションに取り組み始めた頃は、実際に生徒たちに、どのような変化が生まれるのか、予想もつかなかつた。しかし、2年間実践する中で、しばしば生徒の成長を感じる場面に出会うことができた。例えば、友人間でトラブルになった生徒が、「先生、さっきの昼休み言い合いになってしまったので、話合いをしたいです。一緒に聴いてもらえませんか。」と互いに折り合いをつけるための話合いをして解決したいと考え、行動するような姿が見られた。仲のよいグループでは、自分の感情を伝えられても、少し距離のある級友に感情を伝えることは、難しそうな生徒が多い。しかし、この取組によって、そのグループ間の垣根が低くなりつつあるという手ごたえも感じている。より多くの生徒がアサーティブなコミュニケーションを身に付け、笑顔で学校生活を送れることを目指していきたい。そして、自分に自信を、他者に思いやりをもって、成長し続けることができるような工夫を重ねていきたい。

5 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア アサーショントレーニングについて

学校生活でありがちな場面を設定したアサーショントレーニングを実施したことが効果的だった。例えば、これまで相手との関係性を考え、言えなかった自分の気持ちを「表現してもいいんだ。」と考えるようになったことは、思考の変化を促すことができたと考える。嫌なことは嫌と言えるようになった児童生徒が増えたことや、ロールプレイで学んだことを実生活のトラブルにも生かせるようになった児童生徒が増えたことは、行動の変化として捉えられる。こうした変化は、いじめ防止にも役立つと考えられる。また、自分の気持ちなどを伝えるだけでなく、相手の気持ちなどを受け取る面でも成長が認められた。

イ ショートトレーニングの効果について

ロングトレーニングを繰り返し実施することは、教育課程編成上困難があるが、ショートトレーニングは、朝や帰りの時間等に取り入れることで、短時間で繰り返し実施することが可能である。また、シャワーのようにアサーティブな表現を浴びせ続けることができるので、児童生徒の思考の変化を促すには十分と考える。トレーニングでは、児童生徒が日常的に出会う場面を設定し、それを繰り返し行うことで、児童生徒は、ふだんの生活の中で、アサーティブな表現を意識するようになった。例えば、朝の短学活を活用すれば、その日に予定される行事に合わせて実施したり、最近の気になる行動を意識させて生活させたりすることも可能である。教師側としては、準備の負担も少なく、取り組めるメリットも大きい。また、ロングトレーニングと組み合わせて実施するばかりではなく、道徳や学級活動あるいは学級通信などの内容に関連づけて実施することもでき、効果的に活用できる範囲は広いと考える。

ウ 人権意識の高揚

アサーショントレーニングを行ったことで、言葉遣いや他者との接し方の悪さに気付くなど、自分自身を振り返ることにつながった。特に、相手の気持ちを考えて聴いたり伝えたりすることができるようになったことは、相手のことを大切にすることが高まったと考える。また、「自分の気持ちを伝えてもいいんだ。」「自分が嫌だったら断ってもいいんだ。」などと考えるようになったことは、自分自身も大切にすることを高まりであり、自他の人権意識の高揚につながったと考える。

エ 自尊感情の高揚

自他の人権意識が高まると同時に、他者とのかかわりの中で自分の気持ちなどを適切に表現することができるようになった。このことは、自分自身を肯定的に捉えることにもつながり、徐々に自分の言動に自信がもてるように変化したと考える。「授業中、自分の意見を発表することができる。」と回答する児童生徒が増加したことは、自尊感情の高まったことに結びつくと考えられる。

オ 望ましい人間関係の構築と学びの質の高まり

アサーショントレーニングを継続的に行うことで、自分の伝えたいことを伝えてもいいという意識が芽生え、同時に相手の言うこともきちんと聴かなければならな

いという意識も高まった。このことは授業にも変化をもたらし、授業中の友達の発言をきちんと聴こうとする意識が高まった。特にグループ学習においては、これまでは中心となる児童生徒の意見が採り上げられる傾向が強かったが、グループのメンバーの意見をよく聴き、反映しようとする意識が高まった。また、ペア学習では分からないときに「教えて。」と言える安心感ができあがり、頼まれた側も相手の気持ちを大切にし、丁寧にかかわることができるようになった。

カ 発達段階から見た成果

アサーショントレーニングを実践する上では、児童生徒の発達段階の特徴を理解して、取り組むことが大切である。

小学生は、アサーションに対する抵抗感が小さく、トレーニング実施後に、すぐに行動に結びつけようとする意識が強い。この傾向は、大人への依存傾向が強い低学年ほど顕著で、生活を共にする教師が、アサーティブな言動の手本を示すことが定着につながりやすい。アサーションに対する抵抗感をもつ前に、より早い段階でアサーティブな表現に触れることが望ましい。

中学生では、アサーションに対する抵抗感を感じる生徒が多くなる。これは、大人との関係よりも友人関係を優先することや、友達同士の評価を強く意識したり、交流に消極的だったりすることなどの要因が考えられる。しかし、アサーショントレーニングを実施したことで、自分の気持ちや考え、欲求を適切な方法で表現してもよいと考えるように変化してきた。「自分の気持ちを伝えてもいいんだ。」などの感想が生徒から聞かれるようになったことは、他者との関係づくりが必要となる多感な時期の生徒にこそ、アサーティブな表現を伝える意義があったと考える。

高校生にもアサーションに対する抵抗感を示す生徒はいたが、そのよさに気付き行動変容に結びつけた割合は最も大きかった。学校によっては、生徒指導上の問題行動が減少したとの報告もあった。アサーショントレーニングを実施することの効果に加え、定期的にアンケート調査を実施したことが自分自身の在り方の振り返りにつながったとの報告は、高校生の発達段階ならではの効果であったと考える。

(2) 今後の課題

- ショートトレーニングは、短時間でできるメリットは大きいですが、時間を要するロールプレイを組み込むことが困難な場合もある。その際は思考の変化には結びつくが、行動の変化に結びつけることが難しい。ショートトレーニングでロールプレイを実施できない時には、ロングトレーニングと組み合わせて実施することでより効果が上がると考えられる。今後は、ロングトレーニングとショートトレーニングの効果的な組合せや実施の仕方を追究し、提示できるようにしたい。
- アサーショントレーニングを継続的に実施することに効果が高いことが実証された。各学校で継続的に実施し、効果を生み出すためには、学校の時程の中でどの時間に、どの程度組み入れられるかを検討し、1年間を見通した計画が必要となる。
- アサーティブな表現について、「やらされている。」、「違和感がある。」などの意見があった。特に、年齢が上になるほど抵抗感が強い傾向があるので、できる限り早い段階でアサーティブな表現に触れられるように啓発に努めたい。同時に、抵抗感がある児童生徒にも受け入れやすいプログラムを開発する必要がある。

参考文献

- 沢崎俊之 他著 「教師のためのアサーション」 金子書房 2003年
平木典子著 改訂版「アサーション・トレーニング」 金子書房 2012年
平木典子著 「言いたいことがきちんと伝わるレッスン」 大和出版 2010年
森川早苗著 「深く聴くための本」 金子書房 2010年
平木典子著 「「ほめ言葉」ブック」 大和出版 2009年
平木典子著 「自分の気持ちをきちんと〈伝える〉技術」 PHP研究所 2007年
園田雅代 他著 「子どものためのアサーション（自己表現）グループワーク」 日精
研心理臨床センター 2010年
園田雅代 他著 「イラスト版子どものアサーション」 合同出版 2013年

研究関係者一覧

1 研究助言者

国立大学法人埼玉大学 教授 沢崎俊之

2 研究協力員

常陸大宮市立大宮小学校	教諭	河野護
神栖市立軽野東小学校	教諭	大川裕子
境町立森戸小学校	教諭	真中涼子
水戸市立見川中学校	教諭	内田裕子
神栖市立波崎第四中学校	教諭	坂上隆
かすみがうら市立北中学校	教諭	高貫格
県立日立工業高等学校	教諭	大槻満
県立鹿島高等学校	教諭	小沢貴子

3 茨城県教育研修センター

所長	武井一郎（平成25年度）
所長	谷田部佳見（平成24年度）
教育相談課長	仁平伸一
指導主事	渡邊政美
指導主事	深谷佳子（平成25年度）
指導主事	稲生茂穂（平成25年度）
指導主事	水内幸恵
指導主事	小松智樹
指導主事	玉井康浩（平成24年度）
指導主事	高野香保里（平成24年度）



研究報告書第84号

平成24・25年度 教育相談に関する研究

<研究主題>

教育相談的手法を取り入れた児童生徒同士の
コミュニケーション能力の育成

ーアサーショントレーニングを通してー

平成26年 3月発行

編集発行 茨城県教育研修センター

〒309-1722

茨城県笠間市平町1410

電話 0296-78-2121 (代表)

